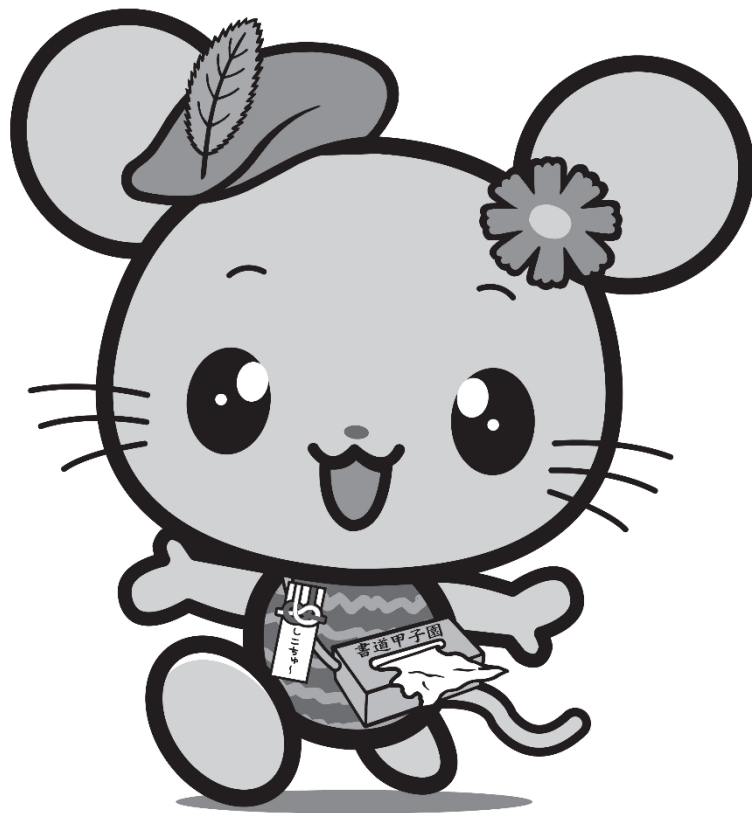


第6期 四国中央市自立支援協議会

第7回会議資料



2019年11月7日

四国中央市自立支援協議会

第 6 期 四国中央市自立支援協議会 第 7 回会議

日時 2019 年 11 月 7 日（木） 19：00～

会場 四国中央市市民交流棟 2 階会議室 1・2

1 開会の挨拶

2 議事

【報告事項】

- ① 第 6 期 四国中央市自立支援協議会専門部会及び連絡会活動報告・・・P6～P11
- ② 2019 年度 四国中央市就職準備フェア・・・・・・・・・・・・・・・・P12～P13
- ③ 四国中央市障がい福祉計画進捗状況・・・・・・・・・・・・・・・・別紙資料
- ④ 四国中央市成年後見制度利用促進基本計画（案）・・・・・・・・P14～P15

3 その他

4 閉会の挨拶

【拠点整備部会】

1. 部会開催状況

2019年度

第1回 4月15日(月) 第2回 5月20日(月) 第3回 6月17日(月)
第4回 7月8日(月) 第5回 8月5日(月) 第6回 9月25日(水)
第7回 10月28日(月)

2. 活動内容およびこれまでの成果

① 地域生活支援拠点整備の検討

2018年度作成した整備イメージを基に、具体案を検討。民間事業所等に期待される役割をまとめる。※別紙参照

② 成年後見、権利擁護啓発ハンドブックの活用

2019年度の完成を目指し、内容の見直しを行う。

3. 今後の協議内容

① 地域生活支援拠点整備に向けての検討

② 成年後見、権利擁護啓発ハンドブック 2019年度版の作成

前年度当部会で提案した「地域生活支援拠点イメージ図」を基に、具体的な機能や必要な役割を整理することで、整備に向けた協議を進めている。

その中でも、民間事業所に求める役割や機能を整理した。

① 既存の資源で対応できる部分

1) 相談機能

- ・ 窓口的役割：基幹相談支援センター、子ども若者発達支援センター
- ・ 相談支援事業所
- ・ 社会福祉協議会がなんでも相談支援センター（仮）の設立を予定

2) 体験の機会・場所

- ・ 日中活動を提供している障害福祉サービス事業所が行う体験利用及び地域生活体験事業の有効活用

3) 緊急時の受入・対応

- ・ 安心生活支援事業
- ・ 短期入所

② 必要と考えられるもの

1) 特別支援学校中等部卒業後の児童も利用できる職業訓練センター

2) 市内で活動している社会福祉法人の連携協議会

③ 今後の課題（部会報告書の補足として）

1) 移動の問題

デマンドタクシーについては、車椅子利用者が乗車できない、乗り換えがあり不便さを感じるなど、障がい者が利用するには課題が多い。

当部会としては、福祉有償運送の実現が意見として挙がっており、今後具体的案を検討したい。

2) コーディネーター機能

緊急時の相談～対応の窓口、各機関の連絡調整を担うコーディネーターについて、当市ではどこの誰が担うのが望ましいかについては、今後検討を行なう。

2020年2月に開催される自立支援協議会において、地域生活支援拠点整備（案）を協議題として提出する。

【資源開発部会】

1. 部会開催状況

第1回	4月16日(火)	第2回	5月23日(木)
第3回	6月12日(木)	第4回	7月2日(火)
第5回	8月7日(水)	第6回	9月3日(火)
第7回	10月7日(月)		

2. 活動内容

○家族向けアンケート調査報告書の作成

○当事者向けアンケートの実施・集計

四国学院大学の学生5名による聞き取り調査と合わせて郵送でも調査を実施し現在、集計中。

・調査対象と方法

手帳所持者から無作為抽出(郵送) 330件(回収 159件)

期間:2019年8月30日~2019年9月20日

部会員事業所に聞き取り調査(訪問) 170件(回収 159件)

期間:2019年9月17日~2019年9月20日

・調査内容:別紙

【オリエンテーションの風景】



3. 今後の活動予定

○当事者向けアンケート結果整理

○3つのアンケートからみえる課題分析

【地域共生部会】

1. 部会開催について

月1回程度実施 原則 第3月曜日 15時～16時半

第1回 4月15日(月) 第2回 5月20日(月) 第3回 6月17日(月)
第4回 7月16日(火) 第5回 8月26日(月) 第6回 9月17日(火)
第7回 10月21日(月)

2. 2019年度の活動内容(取り組むべき課題について)

目標：地域で生きる(暮らす)を支援する

①児童、障がい福祉・教育・介護等関係機関連携強化

『支援者研修会』の開催

⇒ 医療、福祉、介護、教育関係等市内の支援者に案内を行い、制度で途切れない支援の継続を目指し、人が繋ぐ支援体制を構築する。

開催日時： 2019年 9月5日(木) 19時～21時 福祉会館4階

内 容： 研修テーマ『誰もが生涯を安心して送るために、今考えること』

① 話題提供…『当市の課題、支援者の視点とは?』

提供者：高塚政生氏(自立支援協議会委員)

② 座談交流会(テーマ別グループワーク)

参加者： 150名

※今後、座談交流会での意見から、市の課題を部会としてまとめ、報告予定。

②住民理解促進(地域共生を目指す)

障がい者支援者研修会～私も支援者、あなたも支援者～

『ぼうさい学校 ～わたしの防災対策、わたしの町の防災対策～』の開催

開催日： 2020年 2月 29日(土) 10時～15時

開催場所： 市民交流棟、防災センター、ひめぎん駐車場

内 容： 別紙研修会要綱を参照

昨年からの発展点

○会場として、ひめぎんの協力を得られた。ひめぎん駐車場にて市内の障がい事業所等の出店(マルシェ)等を行う。

○各体験をできるだけ多く回って頂けるよう、スタンプラリーを開催する。

(昨年、時間指定のツアーとして行った防災センターの災害体験を常設とし、常時体験可能とする)

○市内の一般企業等に協力を依頼し、協賛品を募る(スタンプラリー景品及び当日の備品として活用予定)。

○相談支援専門員に協力を依頼し、相談受付コーナーを設ける。

ぼうさい学校 ～わたしの防災対策、わたしの町の防災対策～

目 的 : 昨年に引き続き、2018年7月の未曾有の災害、西日本豪雨を教訓に、まずは「自らが行える防災、減災」とは何か、災害対策について考える機会を持つ(自助)。

災害時は、誰もが支援され、支援する立場になることを考慮し、自身の状況を踏まえてお互いを理解し、配慮する体験を通じて、防災、減災に対する各自の意識が向上することを目指す(共助)。

市民を守る防災拠点である四国中央市消防防災センターの取り組みを知り、体験する(公助)。

日 時 : 2020年2月29日(土) 10時～15時

場 所 : 市民交流棟(1階、2階)及び 消防防災センター(1階、3階)、ひめぎん駐車場

参加者 : 四国中央市民(300名程度を見込み)

主 催 : 四国中央市自立支援協議会(地域共生部会)

内 容 : ①体験学習(消防防災センター使用)

(1) 避難所、福祉避難所体験

(2) 防災、災害体験

(3) 救命救急体験

(4) その他

・福祉機器使用体験(避難時利用含む)

②防災グッズ及び非常食等の展示、販売、試食等体験

(1) 我が家の防災バック 展示、紹介

(2) 福祉避難グッズ 展示、紹介

(3) 炊き出し試食

③身近なもので防災グッズ作り

④市内の障がい事業所等の事業案内(パネル展示)、作品出展

⑤市内の障がい事業所等の出店(マルシェ)

【相談支援専門員連絡会】

1. 部会開催状況

2019年度 第1回 4月23日(火) 第2回 5月23日(木)
第3回 6月25日(火) 第4回 7月22日(火)
第5回 8月30日(金) 第6回 9月24日(火)
第7回 10月25日(金)

2. 活動内容

- ・ 困難事例の簡易スーパービジョン
- ・ 自立支援協議会部会員からの報告を受け、協議内容、進捗状況の共有
- ・ 事業所説明会等、事業所の紹介機会の協議
- ・ 相談業務Q&Aの作成に向けて、質問内容の検討
- ・ 新規事業者の紹介
- ・ 主任相談支援専門員（地域リーダー）養成研修についての検討

3. 今後の予定

- ・ 月1回の開催予定
- ・ 計画、モニタリング、国保連への請求や加算についての学習会
- ・ 自立支援協議会への積極的参加
- ・ 相談支援の質の向上に向けて（困難事例の状況共有、事例検討）
- ・ 災害時個別支援プランの進捗状況の確認
- ・ 就職準備フェア、ぼうさい学校への協力
- ・ 相談支援専門員に係る研修制度の見直しによる協力体制の検討

～このまちで 働く気持ち 応援します～

2019年度 四国中央市就職準備フェア開催要綱（案）

1 目的

「障がい者就労」をテーマに、企業での障がい者雇用の取り組みを紹介したり、障がいのある方が面接等疑似体験等を通じて就労に必要なことを学んだりする場を提供することで、企業と障がいのある求職者の相互理解を深め障がい者就労の向上を目指す。

2 主催 2019年度 四国中央市就職準備フェア実行委員会

3 開催日及び場所

日時 2020年1月16日（木）12:30～15:30

場所 市民文化ホール（しこちゅーホール）

①エントランス②小ホール など

4 参加者 障がいのある方等で就労を希望する方等 約100人

①当事者及び家族50人②支援者30人③企業10社④スタッフ10人

5 内容

(1) ミニセミナー（複数の企業が障がい者雇用の実際を語るセミナー）

①愛美会②〇〇〇〇③企業で働く当事者の声

(2) 面接の心得コーナー

（企業と求職者が個別に情報交換できるコーナー※プチ面接・履歴書作成・服装含）

①愛美会②〇〇〇〇③H I T O病院

(3) 相談コーナー

①ハローワーク②東予若者サポートステーション③ジョブあしすとUMA

(4) ピアサポートコーナー

①企業で働く当事者②心のわ

(5) 就労移行・継続A型事業所紹介コーナー

(6) 就労に役立つ福祉機器展

6 当日タイムスケジュール

(1) 12:00～12:30 受付

(2) 12:30～12:35 開会・実行委員長挨拶

(3) 12:35～15:20 ①ミニセミナー ①愛美会 ②〇〇〇〇 ③企業で働く当事者の声

※ミニセミナー開始時間を協議

②面接の心得コーナー

③相談コーナー

④ピアサポートコーナー

⑤就労移行・継続A型事業所紹介コーナー

⑥就労に役立つ福祉機器展

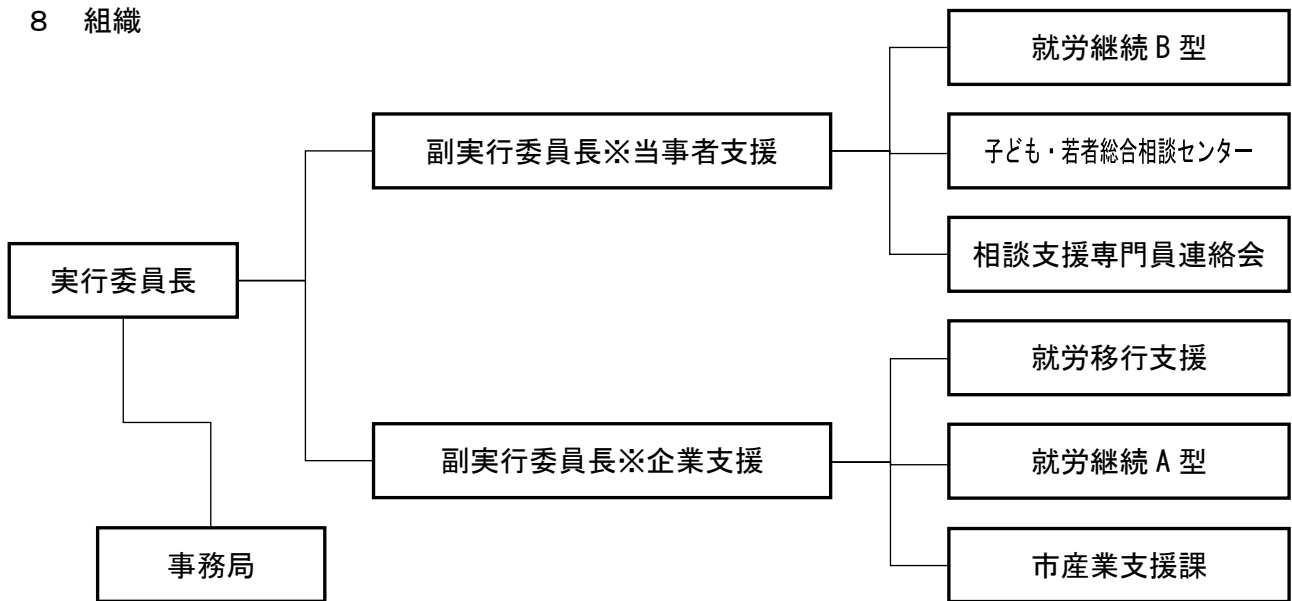
(4) 15:30

閉会

7 スケジュール

8月19日(月)	第1回 実行委員会
9月12日(金)	企業支援チーム会議 (第1回)
9月24日(火)	第2回 実行委員会
10月16日(火)	当事者支援チーム会議 (第1回)
10月28日(月)	第3回 実行委員会
11月26日(火)	第4回 実行委員会
1月16日(木)	就職準備フェア

8 組織



9 実行委員会名簿

NO	役職	氏名	所属	担当	当日
1	実行委員長	曾我部 綾	ジョブあしすと UMA	総括	
2	副実行委員長	宮部 保人	四国中央公共職業安定所	企業支援総括	
3	副実行委員長	藤原 夕紀	自立支援協議会常任委員選出	当事者支援総括	
4	実行委員	藤原 卓也	就労移行支援事業所 代表	企業	
5	実行委員	村上 義人	就労継続 A 型事業所 代表	企業	
6	実行委員	佐竹 泰	就労継続 B 型事業所 代表	当事者	
7	実行委員	鈴木 秀明	自立支援協議会相談支援連絡会会長	当事者	
8	実行委員	今井 ゆかり	子ども・若者総合相談センター	当事者	
9	実行委員	川崎 繁俊	産業支援課	企業	
10	事務局	田邊 真二	生活福祉課	事務全般	

四国中央市成年後見制度利用促進基本計画(案)について

福祉部 生活福祉課・高齢介護課

1. 計画策定の背景と意義

認知症や知的障がい、その他の精神上的障がいがあることによって、財産の管理や日常生活等に支障がある人たちの権利擁護支援のニーズは高まっており、地域社会全体で支えていくことは大きな課題となっています。

国は、成年後見制度が他の社会福祉制度とともに判断能力の不十分な高齢者や障がい者を支える重要な手段であるにもかかわらず、十分に利用されていないことから、成年後見制度の利用の促進に関する法律（平成 28 年 5 月施行）及び成年後見制度利用促進基本計画（平成 29 年 3 月閣議決定）を策定しました。四国中央市においても、市民生活に密接する重要な成年後見制度についての施策を進めるため、平成 30 年度より四国中央市成年後見制度利用促進基本計画策定検討会を立ち上げ、令和元年 10 月 2 日の第 4 回検討会において四国中央市成年後見制度利用促進基本計画（案）が承認されました。

2. 計画の位置づけ

（1）計画の根拠

市が策定する成年後見制度利用促進基本計画は、後見制度の利用の促進に関する法律第 14 条の市町村の講ずる措置となる基本的な計画です。

本計画は、上位計画に位置づけられる「四国中央市第 2 次総合計画」と調和し、体系上の関連計画である「第 2 次地域福祉計画」と一体的に連動して取組み、「高齢者福祉計画・第 7 期介護保険事業計画」、「第 2 次障がい者福祉計画」「障がい福祉計画（第 5 期）」や四国中央市社会福祉協議会が策定した「第 3 次地域福祉活動計画」とも整合性を図ります。

（2）計画の期間

令和 2 年度～令和 6 年度（5 年間）

令和 2 年度に社会福祉協議会が設置を予定している成年後見サポートセンター（仮称）と連携して、令和 4 年度に進捗状況の確認及び中間見直しを行います。また、令和 6 年度の見直しを第 3 次地域福祉計画の見直しと並行して実施し、成年後見の利用促進において必要な施策を地域福祉計画に反映し、本計画を地域福祉計画に組み込みます。

3. 計画の基本目標

成年後見制度の利用を促進するために、国の基本計画に沿った3つの基本目標を設定し、市基本計画期間内において、段階的に条件整備等を進め、権利擁護支援の地域連携ネットワーク構築を目指します。

【基本目標1】 利用者がメリットを実感できる制度の利用

- 1-1 制度の利用しやすさの向上
- 1-2 利用者本人の意思決定及び身上保護の充実

【基本目標2】 地域連携ネットワークの構築等、実施体制の整備

- 2-1 権利擁護支援の地域連携ネットワークの構築（重点施策）
- 2-2 後見人等の担い手の確保

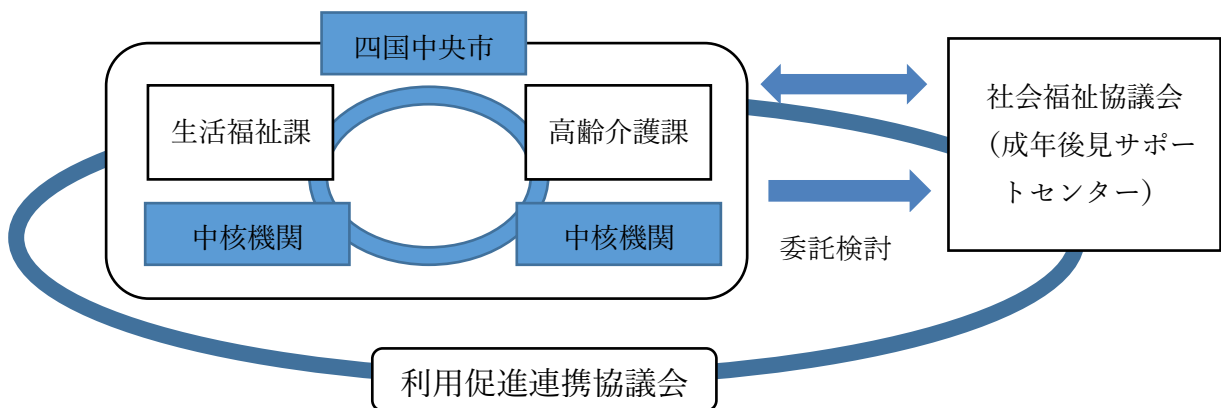
【基本目標3】 制度の普及啓発と不正防止

- 3-1 成年後見制度の広報・啓発活動の強化（重点施策）
- 3-2 不正防止の徹底

4. 重点的に取り組む施策

重点施策1 権利擁護支援の地域連携ネットワークの構築

- (1) 成年後見制度利用促進の中核となる機関の設置・運営
- (2) 利用者を中心としたチームの形成
- (3) 成年後見制度利用促進連携協議会（仮称）の設置



【中核機関と社会福祉協議会関係図】

重点施策2 成年後見制度の広報・啓発活動の強化

- (1) 市民へ向けた広報・啓発活動
- (2) 関係者へ向けた広報・啓発活動

四国中央市障がい福祉計画(第5期)の点検・評価(案)

障がい福祉計画は、障がい福祉サービス等の提供体制の確保に係る目標に関する事項と地域生活支援事業の種類ごとの実施に関する事項を定めたものであり、成果目標の実績把握・分析・評価、結果公表(PDCAサイクル)の導入が義務づけられています。このほど、これまでの実績を検証し、分析・評価と令和2年度のサービス見込量等を修正しました。

概略 ※利用量等見込み80%以下120%以上を抽出

- 1 成果目標は変更なし 地域生活支援拠点整備等計画の実現を目指す
- 2 障がい福祉サービス 就労定着支援・計画相談支援の利用見込量増
- 3 障がい児通所支援 児童発達支援利用見込量増
- 4 地域生活支援事業 訪問入浴サービス利用見込量増

令和2年2月



■成果目標

計画		期		第4期		第5期			備考	
		年度		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度※見込	R2年度※見込		
第2章	1	地域包括ケアシステム構築	分野横断型協議の場	0	0	0	0	1	基幹相談支援センターとパレットと事務局間協議の場は設置済み。地域包括支援センターとの協議の場を設置し、市民を加えた協議の場の検討が必要。	
第3章	1	地域生活支援拠点	1か所設置	0	0	0	0	1	施設から地域移行できる社会資源が少なく、地域移行が困難。当事者の意識を変えることも必要。そのため、生活介護サービス等を施設外で利用するなど、社会との繋がりを強化するよう努めている。医療機関からの地域移行は県計画。	
		施設入所者の地域生活への移行		122						
		★目標値★ 地域生活移行者数(人)			0	0	1	12		
	2	★目標値★ 地域生活移行率(%)	国指針9%以上	0	0	0.0%	0.8%	9.8%		
		施設入所者数(人)		122	122	121	121	140	R2年に加齢児の移行ウを検討中。そのため、施設利用者数は増となる見込み。県との協議を重ね実現に向けていく。太陽の家の移転等協議も重ねていく。	
		(参考)加齢児入所者数		19	19	19	17	0		
	★目標値★ 削減数(人)		0	0	0	0	▲17			
	3	★目標値★ 削減率(%)	国指針2%以上	0	0	0	0	-13.9%		
		2	(1) 福祉施設から一般就労への移行等		6	8	5	6	9	計画では平成28年度7人実績予定だったが6人に修正。その1.5倍9人目標に修正。事業者聞き取りの上、7人を見込む。
			★目標値★ R2年度中一般就労者数/28年度中一般就労者数	国指針1.5倍以上	100%	133%	83%	100%	150%	
	4	(2) 就労移行支援事業所利用者数(人)		18	18	23	19	20	大幅な利用者増見込みは困難。適正な利用に努める。	
		★目標値★ R2年度末就労移行支援事業利用者/H28年度利用者(倍)	国指針1.2倍以上(2割以上増加)	100%	100%	128%	106%	111%		
3	(3) ★目標値★ R2年度末における就労移行率3割以上の就労移行支援事業所の割合	国指針5割以上	2	2	2	2	2	市内2事業者共に目標達成している。ニーズにより新たな事業者創設が必要か否か検討。		
	★目標値★ 就労移行支援事業達成事業者/就労移行支援事業者	国指針1.2倍以上(2割以上増加)	100%	100%	100%	100%	100%			
4	(4) 就労定着利用者数				9	10	14	就労定着率は80%以上は達成できる見込み。		
	★目標値★ 就労定着支援事業支援開始後1年後の職場定着率(%)	国指針80%以上				89%	100.0%			
第4章	1	児童発達支援センター設置箇所数	R2年度末までに1箇所	1	1	1	1	1	平成29年度に子ども若者発達支援センター設置	
	2	主に重症心身障害児を支援する児童発達支援事業所	R2年度末までに1箇所	0	1	1	0	1	平成29年度に設置された事業所が平成31年4月に休止。令和2年度に新たに設置を目指す。	
		主に重症心身障害児を支援する放課後等デイサービス事業所	R2年度末までに1箇所	0	1	1	0	1	平成29年度に設置された事業所が平成31年4月に休止。令和2年度に新たに設置を目指す。	
	3	医療的ケア児支援のための関係機関の協議の場	R2年度末までに1箇所	0	0	0	1	1	R1、子ども若者総合相談センターが実施している子ども若者ネットワーク会議に実務者会議を設置し、医療的ケア児を検討する協議を行う。	

障がい福祉計画(第5期)における障がい福祉サービス等実施状況

※年度末

四国中央市		第4期				第5期							達成率	備考	分析		
		H27年度	H28年度	H29年度	達成率	H30年度計画	H30年度実績	達成率	R元年度計画	R元年度実績※見込	達成率	R2年度計画				R2年度実績※見込	
																	H27年度
訪問系サービス		利用者数	126	135	137	77.8%	160	158	98.8%	170	150	88.2%	180	180	100.0%	計画どおり増加傾向。見込みも変更なし。	
		利用時間	2,231	2,272	2,413	95.9%	2,560	2,178	85.1%	2,720	2,326	85.5%	2,880	2,880	100.0%		
日中活動系サービス	生活介護	利用者数	206	204	208	93.3%	220	255	115.9%	225	219	97.3%	230	230	100.0%	220人～240人ほどで推移すると見込み。計画変更なし。	
		利用日数	4,166	4,078	4,063	91.4%	4,400	4,106	93.3%	4,500	4,049	90.0%	4,800	4,800	100.0%		
	自立訓練 機能訓練	利用者数	0	1	0	0.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%	1	1	100.0%	利用者はいないが変更なし。	
		利用日数	0	19	0	0.0%	22	0	0.0%	22	0	0.0%	22	22	100.0%		
	自立訓練 生活訓練	利用者数	1	4	5	35.7%	17	20	117.6%	22	10	45.5%	32	32	100.0%	宿泊型舎	
		利用日数	29	108	101	32.1%	287	237	82.6%	362	143	39.5%	592	592	100.0%		
	就労移行支援	利用者数	22	18	18	42.9%	20	23	115.0%	20	19	95.0%	20	20	100.0%	変更なし。	
		利用日数	358	299	232	29.9%	370	363	98.1%	370	305	82.4%	370	370	100.0%		
	就労定着支援	利用者数	/	/	/	/	6	9	150.0%	6	10	166.7%	6	14	233.3%	新サービスのため、利用者数の想定が困難だった。計画以上の利用率だが、今後の推移を見極めることが必要。計画量増。	
		利用日数	/	/	/	/	6	9	150.0%	6	10	166.7%	6	14	233.3%		
	就労継続支援	A型	利用者数	16	16	20	62.5%	25	23	92.0%	35	26	74.3%	35	35	100.0%	令和元年8月に事業者増。計画に近い利用者数等をを目指す。
			利用日数	318	342	377	59.8%	500	426	85.2%	700	506	72.3%	700	700	100.0%	
		B型	利用者数	103	119	129	99.2%	160	159	99.4%	180	159	88.3%	200	200	100.0%	
			利用日数	1,617	1,903	2,002	96.3%	2,400	2,355	98.1%	2,700	2,457	91.0%	3,000	3,000	100.0%	
療養介護	利用者数	21	20	21	110.5%	20	21	105.0%	20	22	110.0%	20	20	100.0%	変更なし。		
	利用日数	20	15	11	40.7%	21	17	81.0%	26	12	46.2%	31	31	100.0%			
短期入所	利用者数	278	166	71	30.9%	147	102	69.4%	182	73	40.1%	217	217	100.0%	福祉型・医療型舎		
	利用日数	278	166	71	30.9%	147	102	69.4%	182	73	40.1%	217	217	100.0%			
居住系サービス	自立生活援助	利用者数	/	/	/	/	2	0	0.0%	4	0	0.0%	6	0	0.0%	新サービス。事業者がない。	
	共同生活援助	利用者数	57	60	62	87.3%	59	59	100.0%	59	58	98.3%	80	80	100.0%	ニーズに対し、サービスの環境が整わない。ニーズに対応するため市外事業者も活用。	
	施設入所支援	利用者数	149	143	140	97.9%	140	138	98.6%	140	142	101.4%	140	140	100.0%		
相談支援	計画相談支援	利用者数	55	58	75	150.0%	70	97	138.6%	75	111	148.0%	80	120	150.0%	計画策定時よりも増加している。計画数が減少することは、ほほありえないため、利用者数増を見込む。	
	地域移行支援	利用者数	1	1	1	50.0%	2	0	0.0%	2	1	50.0%	2	2	100.0%	地域移行者数が伸びない中、積極的な支援の必要がある。計画変更はなし。	
	地域定着支援	利用者数	1	2	1	100.0%	4	0	0.0%	4	0	0.0%	4	2	50.0%	地域移行者数が伸びない中、積極的な支援の必要がある。	
地域生活支援拠点	状況	自立支援協議会に専門部会を設置し検討中。R2年度末に整備する方針。											いづれかに○⇒	整備済	2(作業中)	3検討中	4未検討
	備考																
特記事項																	

障がい福祉計画(第5期)における障がい児通所支援等実施状況

※年度末

四国中央市		第4期				第5期							達成率	備考	分析	
		H27年度	H28年度	H29年度	達成率	H30年度計画	H30年度実績	達成率	R元年度計画	R元年度実績※見込	達成率	R2年度計画				R2年度実績※見込
障がい児通所支援	児童発達支援	利用者数		89	108	108.0%	100	145	145.0%	110	145	131.8%	120	155	129.2%	きめ細やかな面談等から療育が必要と思われる未就学児の利用が伸びてきている。また、新たな事業者創設にも伴い利用者増に繋がっている。利用増による計画変更を行う。利用日数は4.2日/月で試算。
		利用日数		322	592	148.0%	420	560	133.3%	462	560	121.2%	504	651	129.2%	
	放課後等 デイサービス	利用者数		168	212	176.7%	400	335	83.8%	420	335	79.8%	440	390	88.6%	第4期からニーズが高く、事業者も大幅に増加し、対応してきた。結果、第4期計画から大幅に増加した。第5期計画でも、利用増を見込んだが、想定よりは低く推移している。計画を微修正。
		利用日数		1,010	1,068	227.7%	2,400	1,648	68.7%	2,520	1,648	65.4%	2,840	2,340	88.6%	
	保育所等訪問支援	利用者数		2	0	0.0%	3	0	0.0%	4	0	0.0%	5	5	100.0%	
		利用日数		3	0	0.0%	6	0	0.0%	8	0	0.0%	10	10	100.0%	
	医療型 児童発達支援	利用者数		0	0		0	0		0	0		0	0		
		利用日数		0	0		0	0		0	0		0	0		
居宅訪問型 児童発達支援	利用者数	/	/	/	/	3	0	0.0%	3	0	0.0%	3	0	0.0%	新サービス。事業者がいない。	
	利用日数	/	/	/	/	15	0	0.0%	15	0	0.0%	15	0	0.0%		
障がい児相談支援	利用者数		45	57	300.0%	70	47	67.1%	75	47	62.7%	80	80	100.0%		
医療的ケア児 コーディネーター配置	利用者数	/	/	/	0.0%	0	0		0	0		1	1	100.0%	コーディネーター講習受講者はH30に3人受講。配置は今後の課題。	
特記事項																

障がい福祉計画(第5期)に定める地域生活支援事業実施状況

※年度末

事業名	H30年度計画		H30年度実績		見込率		令和元年度計画		令和元年度実績 ※見込		見込率		令和2年度計画		令和2年度実績 ※見込		見込率		実施に関する考え方	
	実施見込み箇所数	実利用見込み者数	実施箇所数	実利用者数			実施見込み箇所数	実利用見込み者数	実施箇所数	実利用者数			実施見込み箇所数	実利用見込み者数	実施箇所数	実利用者数				
(1)理解促進研修・啓発事業※実施の有無	有		有		○		有		有		○		有		有		○		地域活動支援センターや自立支援協議会専門部会と連携し必要かつ有益な事業を展開。	
(2)自発的活動支援事業※実施の有無	有		有		○		有		有		○		有		有		○		ピアサポート相談支援事業実施。	
(3)相談支援事業																				
① 障がい者相談支援事業	6		6		100%		6		6		100%		6		7		117%		1事業者相談増を視野に入れる	
基幹相談支援センター ※設置の有無を記載	有		有		有		有		有		有		有		有		○			
② 基幹相談支援センター等機能強化事業※実施の有無	有		有		有		有		有		有		有		有		○		相談支援機能強化を図りつつ、高齢介護・児童発達支援に関わる機関とも連携し、分野横断型の体制整備によるサービスの充実。 相談支援専門員の育成事業。	
(4)成年後見制度利用支援事業		5		3	60%			5		2	40%			5		5	100%		促進計画を策定し、それに準じた適正な本事業の利用促進に努める。 サポートセンター(仮称)設置予定。 市民後見人育成や利用促進に努める。	
(5)成年後見制度法人後見支援事業 ※実施の有無を記載	無		無		無		無		無		無		無		無		無			
(6)意識疎通支援事業																				
① 手話通訳者・要約筆記記者派遣事業 ※実利用見込み件数を記載		265		192	72%			270		220	81%			270		220	81%		手話通訳者等の育成や県聴覚障害者協会との広域連携強化に努め当事者支援を図る。 また、盲ろう者に対する支援も検討。	
② 手話通訳者設置事業 ※実設置見込み者数を記載	1		1		100%		1		1		100%		1		1		100%		設置方法等を関係者と協議しながら効果的な設置を実施します。	
(7)日常生活用具給付等事業※給付等見込み件数を記載																				
① 介護・訓練支援用具		15		1	7%			15		2	13%			15		2	13%			
② 自立生活支援用具		20		7	35%			20		4	20%			20		6	30%		排泄管理支援用具(紙おむつ・ストーマ等)の支給は障がい者等の高齢化に伴い増加すると思われる。	
③ 在宅療養等支援用具		25		8	32%			25		8	32%			25		8	32%		その他の給付は数値見込みは困難だが、適切な給付に努め利用者の意見や要望を踏まえながら適宜給付対象品目の見直しを行う。	
④ 情報・意識疎通支援用具		35		12	34%			35		12	34%			35		12	34%			
⑤ 排泄管理支援用具		2,300		2,376	103%			2,300		2,500	109%			2,300		2,530	110%			
⑥ 居宅生活動作補助用具(住宅改修費)		5		5	100%			5		2	40%			5		5	100%			
(8)手話奉仕員養成研修事業 ※実養成講習修了見込み者数(登録見込み者数)を記載		5		7	140%			5			0%			5			0%			
(9)移動支援事業 ※「実利用見込み者数」欄に、実利用見込み者数、延べ利用見込み時間数の順に記載	130	5,000	92	4,322	71%	86%	130	5,000	117	4,500	90%	90%	130	5,000	117	4,500	90%	90%	適切な利用促進に努めます。そのために移動支援事業支給決定のガイドライン等の作成を進めています。	
(10)地域活動支援センター	4	1,200	4	885	100%	74%	4	1,200	4	900	100%	75%	4	1,200	4	1,000	100%	83%	設置法人や事業所との連携強化を図り、日中活動支援に努めるとともに、利用者の障がい福祉サービスの活用を進める。	
① 手話通訳者・要約筆記記者養成研修事業 ※実養成講習修了見込み者数(登録見込み者数)を記載		6		4	67%			6		6	100%			6		6	100%			
訪問入浴サービス	2	180	2	295	100%	164%	2	180	2	300	100%	167%	2	180	2	300	100%	167%	利用者の実態を適切に把握し、生活介護サービスでの入浴等自立支援給付との組み合わせによる適正な支援方法を検討。利用日数を運用で原則10日/月とした。	
日中一時支援	1	24	1	17	100%	71%	1	24	1	24	100%	100%	1	24	1	24	100%	100%	事業所創設の足掛かりを検討。 放課後等デイサービス等他のサービスとの利用のすみ分けを明確に。	
地域移行のための安心生活支援	1	数値見込まず	1	数値見込まず	100%	数値見込まず	1	数値見込まず	1	数値見込まず	100%	数値見込まず	1	数値見込まず	1	数値見込まず	100%	数値見込まず	利用者目線に立ち、障がい者が地域で安心して暮らすことができる環境づくりに各サービスを活用するとともに、今後の事業のあり方を再検討。	
社会参加支援	1	数値見込まず	1	数値見込まず	100%	数値見込まず	1	数値見込まず	1	数値見込まず	100%	数値見込まず	1	数値見込まず	1	数値見込まず	100%	数値見込まず	関係機関と今後の事業運営を協議。	
就業・就労体験(職場体験応援事業)	1	50	1	34	100%	68%	1	50	1	40	100%	80%	1	50	1	50	100%	100%	企業連携や就労関係事業者等との連携に努める。	
医療的ケアの推進	1	数値見込まず	0	数値見込まず	0%	数値見込まず	1	数値見込まず	0	数値見込まず	0%	数値見込まず	1	数値見込まず	1	数値見込まず	100%	数値見込まず	支援者養成に努め医療的ケアの体制整備強化に努める。	

**第6期四国中央市自立支援協議会
障がい児・者の家族向けアンケート
調査報告書**

令和元年11月

四国中央市自立支援協議会資源開発部会

1. 調査目的

家族の目線から当事者及び家族等の障がい福祉サービスのニーズ調査・分析を行い、不足しているサービスの検証や充実するための方策の研究、未実施及び新たなサービス利用に関する基礎資料を得ることを目的として実施した。

2. 調査概要

- 調査対象 障がい児・者の家族
- 調査方法 直接配布、郵送配布
- 調査票 別添1参照
- 調査期間 2019年2月22日～3月22日
- 回収率 61.4%（回収数307件 / 配布・郵送数500件）

3. 集計・分析方法

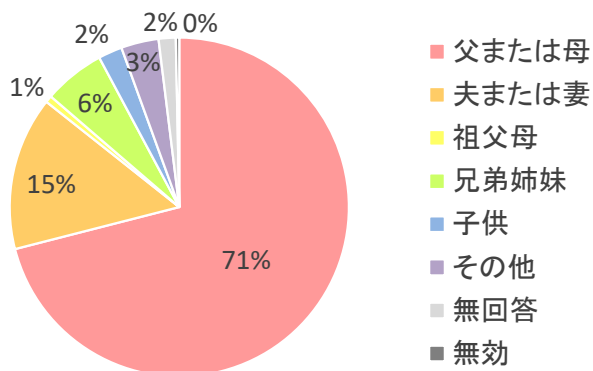
回答者全体を集計する単純集計とともに、障がいの種別で相違や傾向を分析するため、設問3の「身体障害者手帳」「療育手帳」「精神障害者保健福祉手帳」の回答別にクロス集計も併せて行った。（別添2参照）

※ クロス集計 … 年齢や性別など対象者（属性）を限定して集計する手法

4. 調査結果

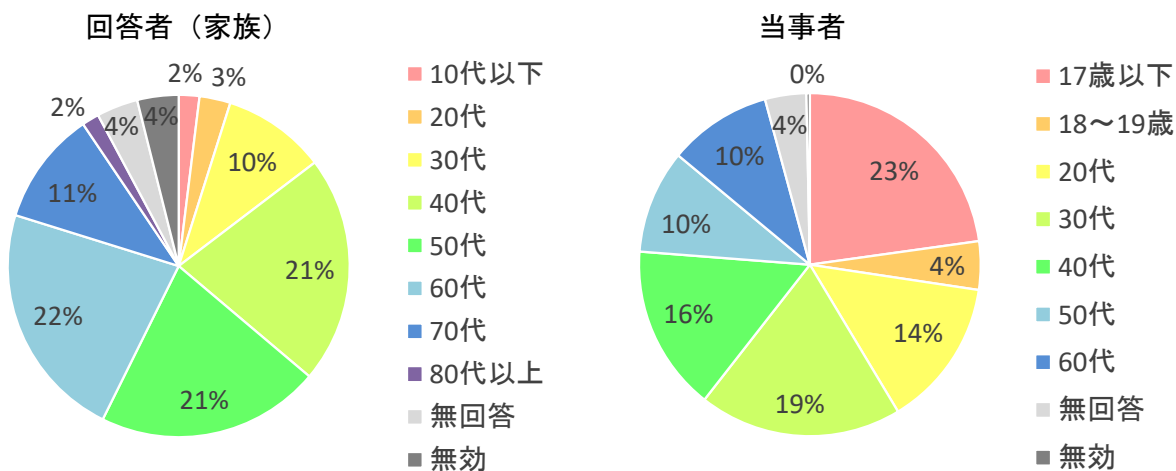
問1 アンケートの回答者

- 回答者の内 71%が「父または母」となり、次に「夫または妻」(15%)が多い
- 身体障害者手帳所持者では、「父または母」より「夫または妻」が37%と最も多い
- 療育手帳所持者では、94%とほとんどが「父または母」となっている



問2 ご家族（回答者）とご本人の年齢

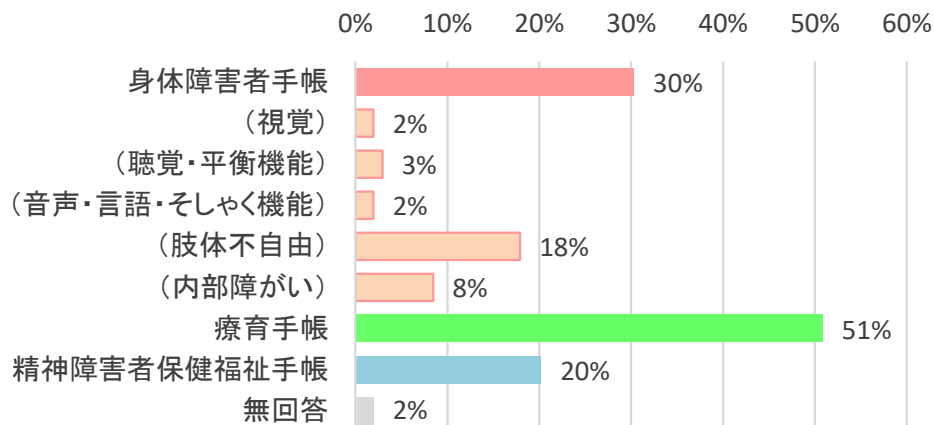
- 回答者は 40代、50代、60代がそれぞれ2割以上を占め特に多い
- 当事者は 17歳以下が23%と多く、次に30代(19%)、40代(16%)と続く
- 身体障害者手帳所持者は、50～60代が約5割を占める
- 療育手帳所持者は、30代以下が8割を超える
- 精神障害者保健福祉手帳所持者は、30～40代が約6割を占める



問3 ご本人が持っている手帳 (複数回答)

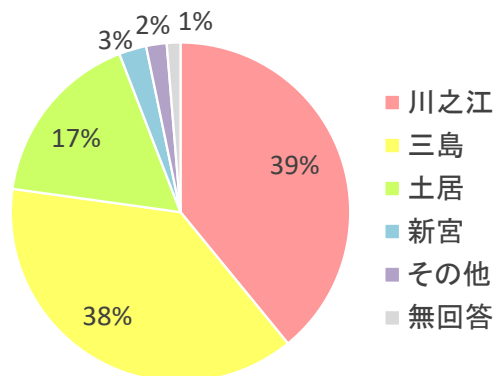
○ 療育手帳所持者が約5割、身体障害者手帳所持者が約3割、精神障害者保健福祉手帳所持者が約2割となっていて、約3%が重複(身体と療育、療育と精神)して手帳を所持している

※ 四国中央市の59歳以下の手帳所持者の構成は、身体障害者手帳が約35%、療育手帳が約43%、精神障害者保健福祉手帳が約22%なので、全体集計ではやや療育手帳所持者の意向が強く現れることとなる



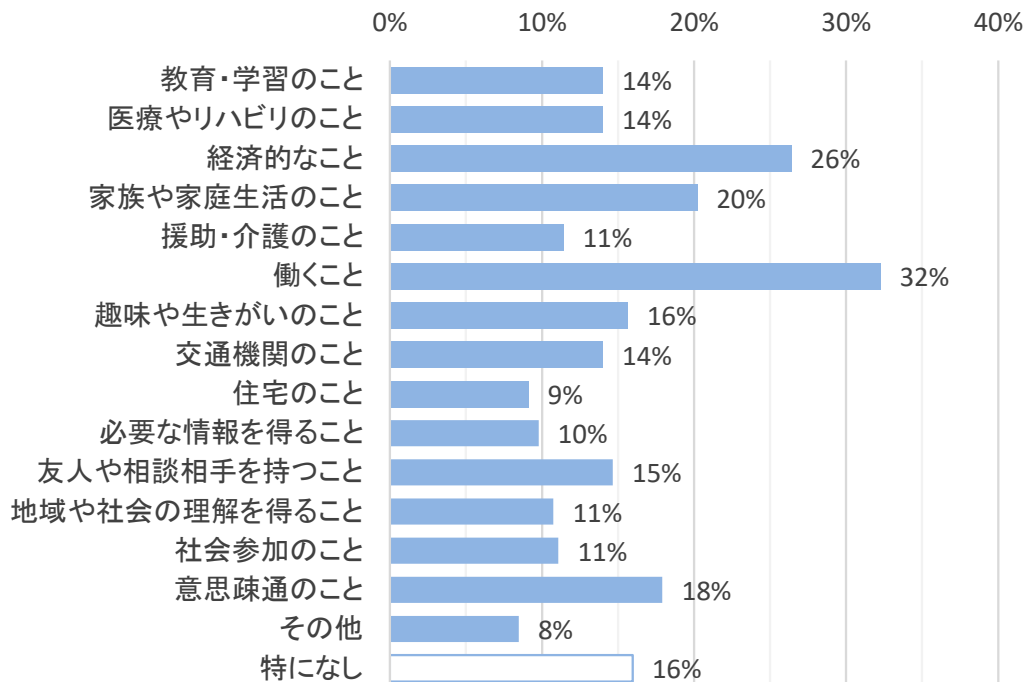
問4 ご本人が現在お住まいの地域

○ 人口割合と比較して、地域の偏りはあまりみられない



問5 ご本人またはご家族にとって、今の生活の中での悩みや困りごと（複数回答）

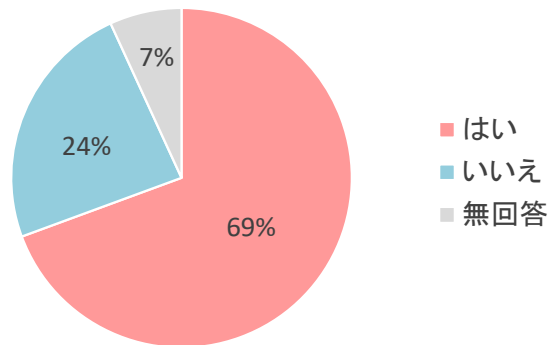
- 「働くこと」が32%と多く、「経済的なこと」(26%)と「家族や家庭生活のこと」(20%)と続く
- 身体障害者手帳所持者は、「経済的なこと」(27%)と「働くこと」(26%)が特に多い
- 療育手帳所持者は、「働くこと」(28%)と「意思疎通のこと」(27%)が特に多い
- 精神障害者保健福祉手帳所持者は、「働くこと」が55%と最も多いが、「経済的なこと」(35%)においても他の手帳所持者よりも多い
- ※ 各手帳所持者の集計のうち30～40代をさらに抽出して集計した結果においても、「働くこと」「経済的なこと」においては各手帳所持者で大きな変動はなかった。上記の結果は、(年齢よりも)障がい種別による傾向である可能性が高い
- 特に悩みや困りごとがない人は全体で16%いるが、療育手帳所持者の家族は13%と他の手帳所持者より様々なことで悩みや困りごとがある
- 1人あたりの悩みや困りごとの回答数は、身体障害者手帳所持者が1.63、療育手帳所持者が2.61、精神障害者保健福祉手帳所持者が2.58となっている
- その他の悩みは、「親亡き後の生活」に関するものが7件と最も多かった



	身体障害者手帳 所持者	療育手帳 所持者	精神障害者 保健福祉手帳 所持者
悩み・困りごとの回答数	152	407	160
1人あたりの悩み・困りごとの数	1.63	2.61	2.58

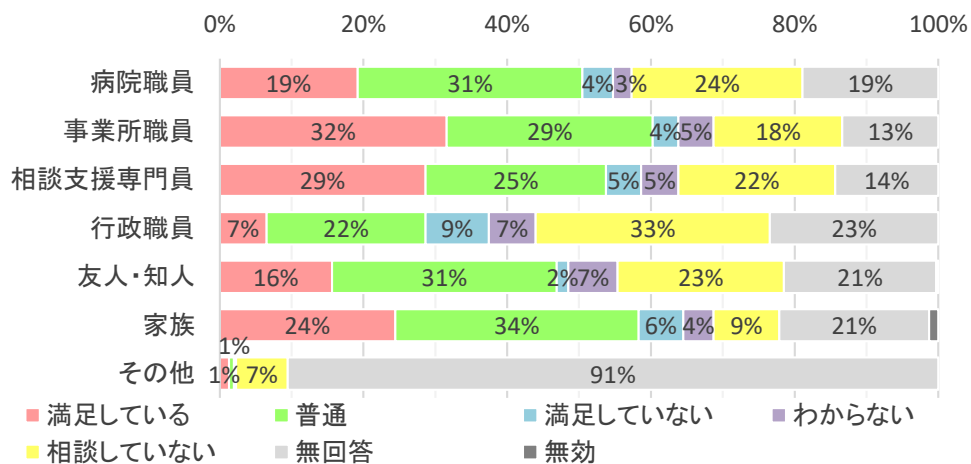
問6 サービスを使いたいときや、ご本人のことを相談したいときに、どこに相談すればいいか知っている

- 4人に1人は、相談先を確保できていない
- 身体障害者手帳所持者は、約半数が相談先を確保できていない



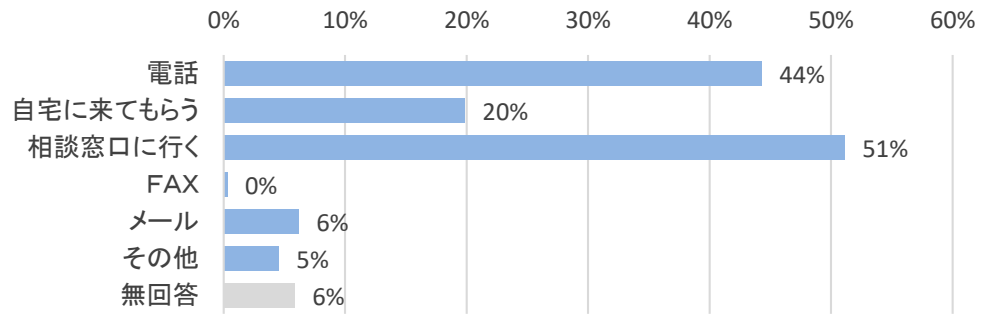
問7 ご本人のことを相談する相手の満足度

- 満足している割合が高いのは事業所職員と相談支援専門員で、約半数が満足している
 - 行政職員においては、満足している人の割合が低く、満足していない割合が高い（相談していない割合も33%と高い）
 - 身体障害者手帳所持者は、相談していない割合が高い傾向にある
 - 療育手帳所持者は、事業所職員や相談支援専門員に相談している人が多く、そのうちの半数以上は満足している
 - 精神障害者保健福祉手帳所持者は、病院職員に相談している人が多く、そのうち半数は満足している
- ※ 満足の割合については、「満足している」「普通」「満足していない」と回答した人（評価した人）のうち、「満足している」と回答した人の割合としている



問8 希望する相談方法 (複数回答)

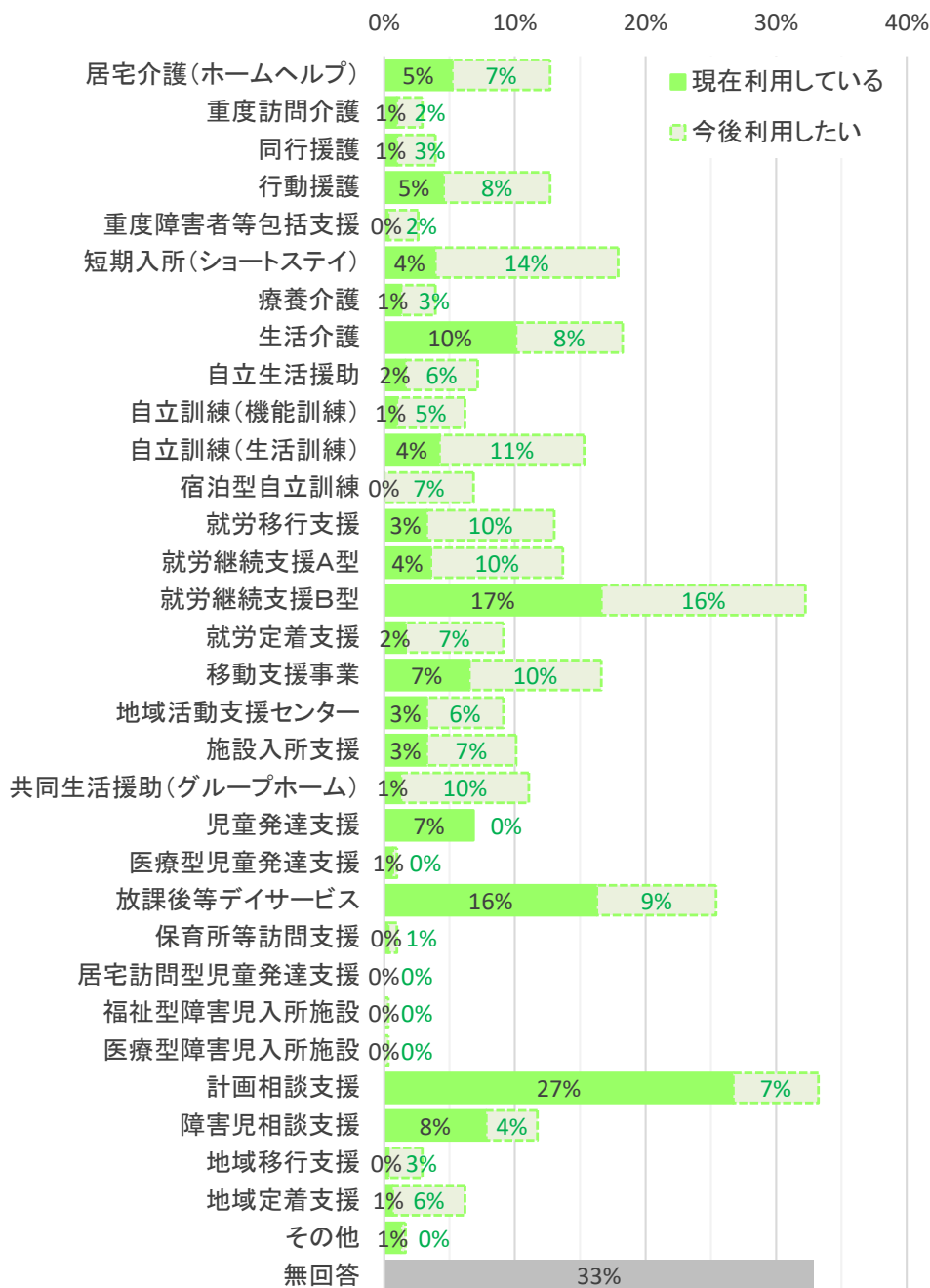
- 「相談窓口に行く」(51%) や「電話」(44%) を希望する人が多い
- 身体障害者手帳所持者は、「相談窓口に行く」(37%) より「電話」(46%) を希望する人が多い



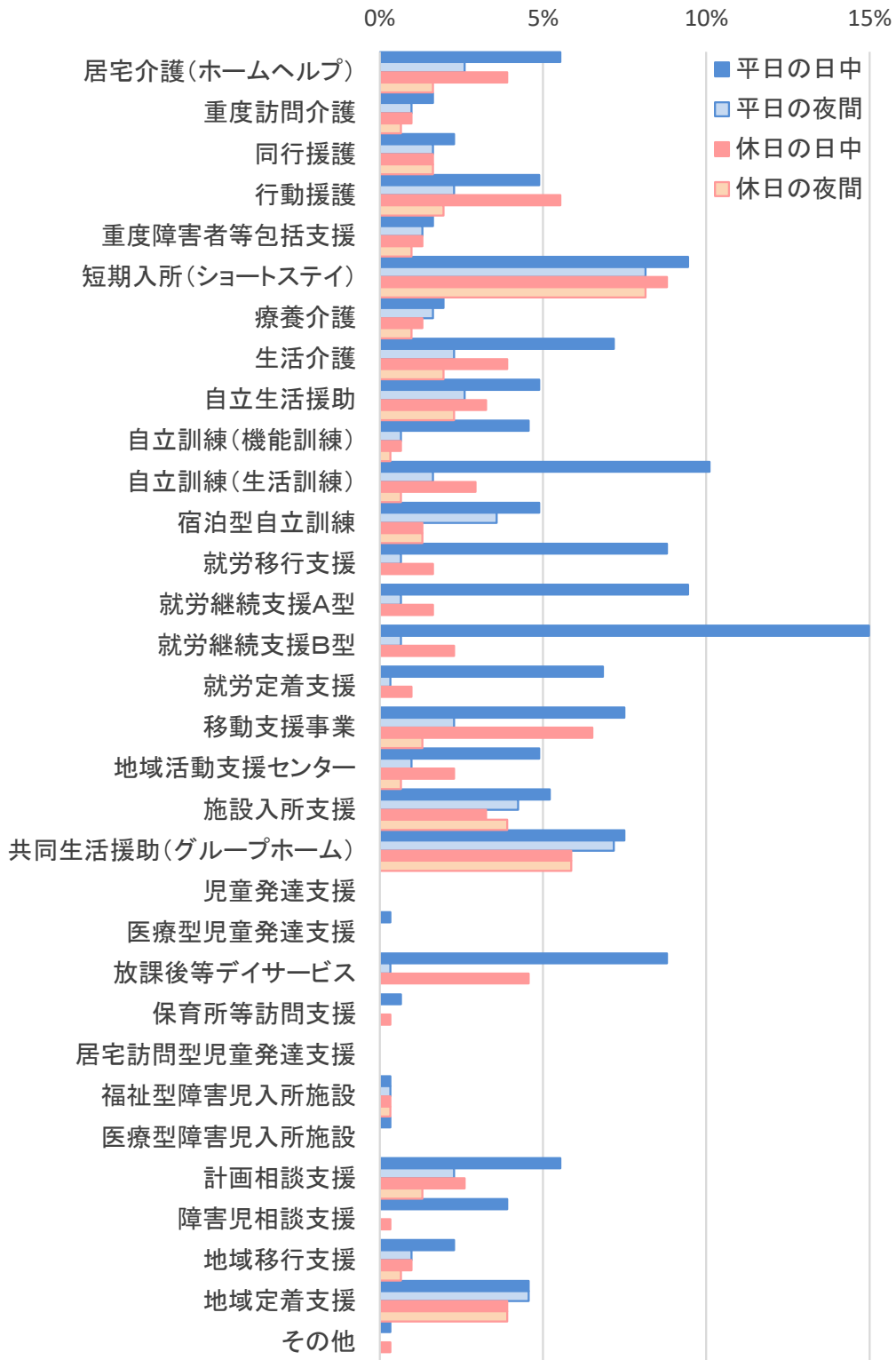
問9・10

ご本人が現在利用している障がい福祉サービスと、現在は利用していないが今後利用したい障がい福祉サービスとその時間帯（複数回答）

- 今後利用したいサービスとしては、「就労継続支援B型」（16%）と「短期入所（ショートステイ）」（14%）が多い
- 身体障害者手帳所持者は、あまりサービスを利用していないが、「生活介護」（16%）と「短期入所（ショートステイ）」（14%）の利用のニーズが高い
- 療育手帳所持者は、「就労継続支援B型」（23%）と「短期入所（ショートステイ）」（19%）の利用のニーズがある
- 精神障害者保健福祉手帳所持者は、「就労移行支援」（13%）や「就労継続支援B型」（11%）などの就労に関するニーズがある

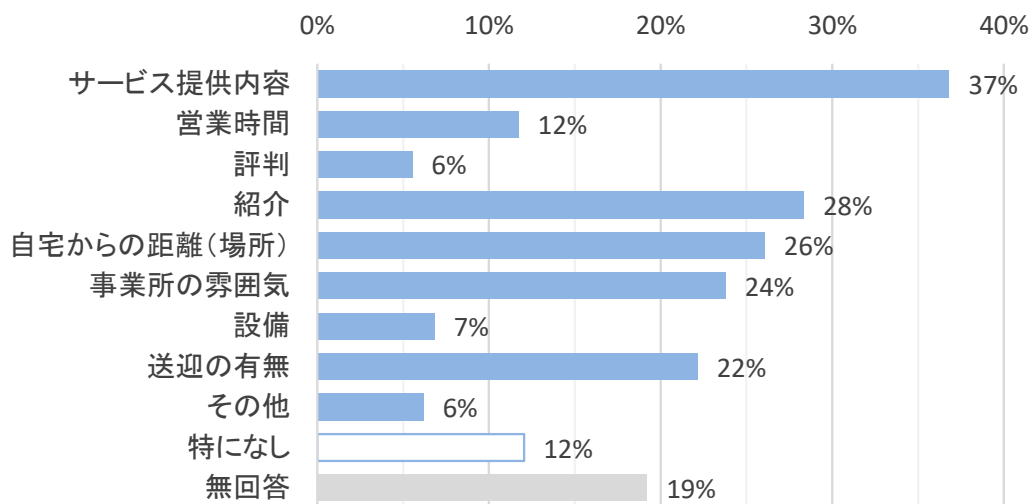


- サービス全体の傾向としては、平日日中の利用希望が多い
- 行動援護においては、平日日中よりも休日日中の利用希望が多い
- 身体障害者手帳所持者は、平日と休日の利用希望の差が少ない
- 療育手帳所持者は、平日の利用希望に対して休日の希望は少ない



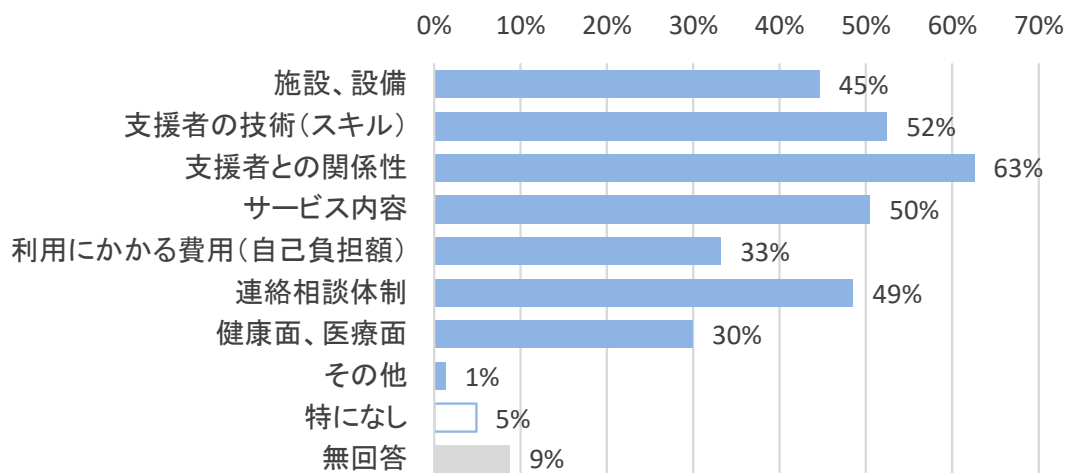
問 1 1 ご本人が利用しているサービス提供事業所を選んだ理由 (複数回答)

- 「サービス提供内容」が約 37%と最も多く、「紹介」(28%)、「自宅からの距離(場所)」(26%)と続く
- 「評判」や「設備」はあまり理由にはなっていない、「特になし」とする人も 12%いる
- 精神障害者保健福祉手帳所持者は、「サービス提供内容」(24%)よりも「紹介」(37%)が最も多く、「評判」が 2%と特に少ない
- 療育手帳所持者は、送迎のニーズが高い



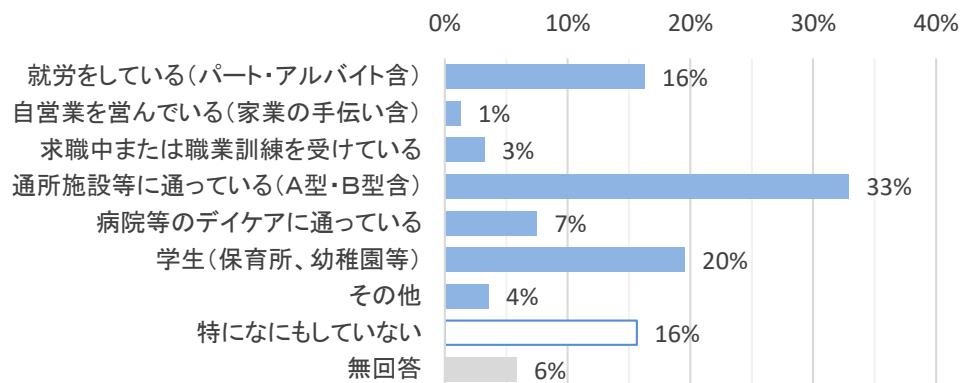
問 1 2 安心して支援者に任せるために重要なこと (複数回答)

- 「支援者との関係性」が 63%と最も高く、重視されている
- 身体障害者手帳所持者は、他の手帳所持者よりも「利用にかかる費用(自己負担額)」が重視されている



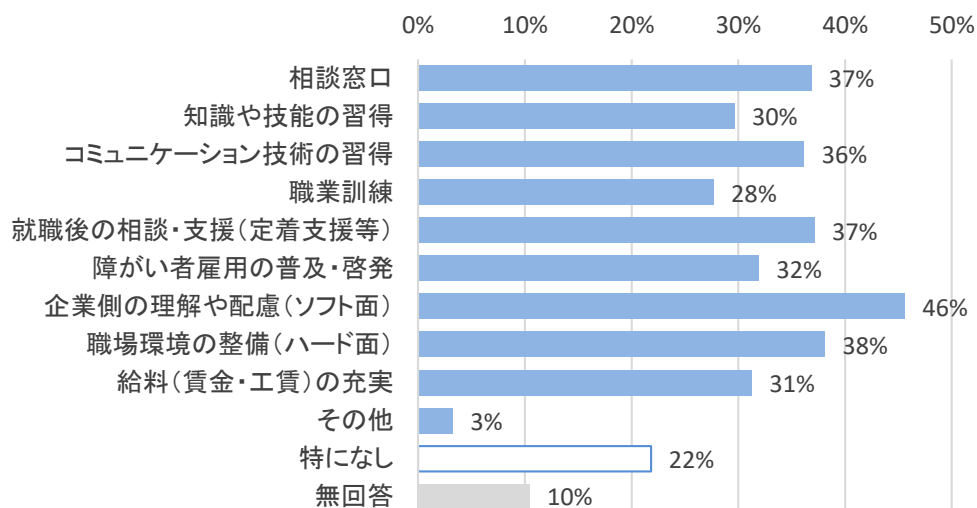
問 1 3 ご本人の現在の就労状況など

- 「通所施設等に通っている（A型・B型を含む）」が33%と最も多いが、障がいの種別以外にも、当事者の年齢やライフステージによるものも影響した結果と思われる
- 身体障害者手帳所持者は、「就労をしている」（31%）や「特になにもしていない」（32%）が多い
- ※ 「就労をしている・自営業を営んでいる」（就労あり）と「特になにもしていない」（就労なし）にさらに抽出して集計すると、就労ありは20～50代が75%で60代が6%、就労なしはそれぞれ37%と50%、と当事者の年齢による影響が大きい
- 療育手帳所持者は、「通所施設等に通っている（A型・B型を含む）」（42%）と「学生（保育所、幼稚園、認定こども園を含む）」（33%）が多い
- 精神障害者保健福祉手帳所持者は、「通所施設等に通っている（A型・B型を含む）」（39%）が多い



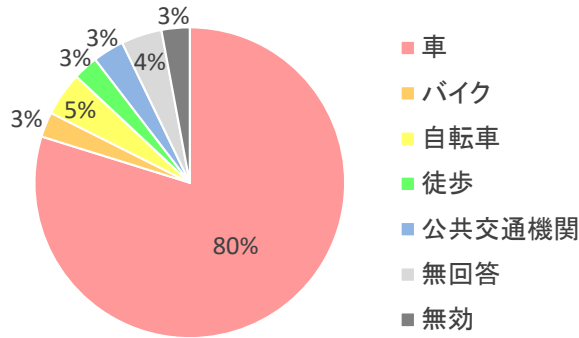
問 1 4 ご本人の就労のために必要な支援（複数回答）

- 「企業側の障がい者への理解や配慮（ソフト面）」が46%と最も高いが、各項目に大きな差はなく、あらゆる面で支援の充実が求められている



問15 ご家族の主な（よく利用する）移動方法 （複数回答）

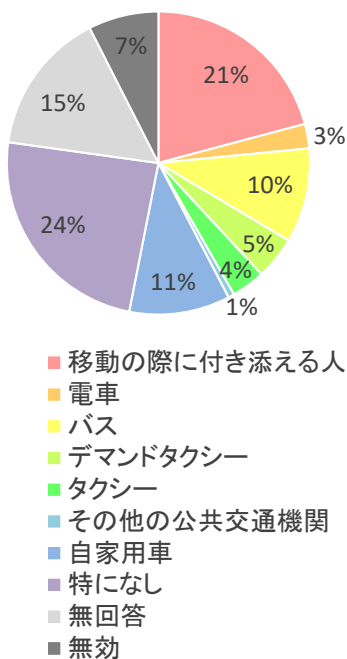
- 車が約80%と最も高い
- 精神障害者保健福祉手帳所持者の家族は、バイク・自転車での移動が多い



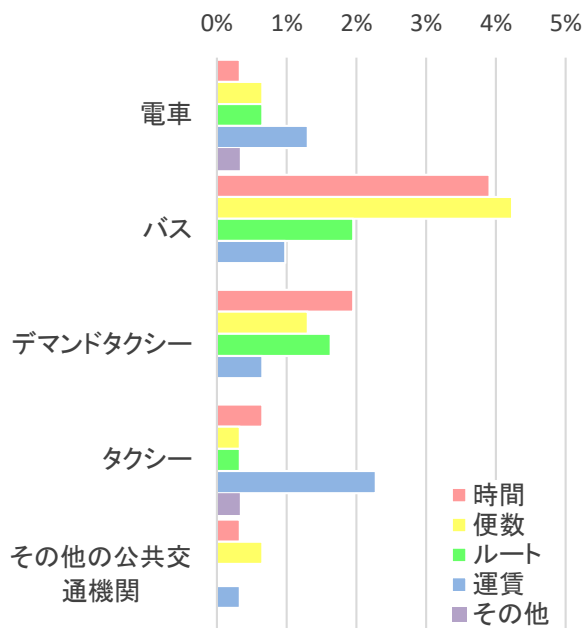
問16 ご本人やご家族にとって、移動の時に充実してほしいもの

- 身体障害者手帳所持者と療育手帳所持者は、「移動の際に付き添える人（ご家族や介助者等）」がそれぞれ19%、29%と最も高く、精神障害者保健福祉手帳所持者では、バス・デマンドタクシーへの要望が多い
- バス・デマンドタクシーの充実してほしい内容としては、「便数」「時間」「ルート」が多い

充実してほしいもの

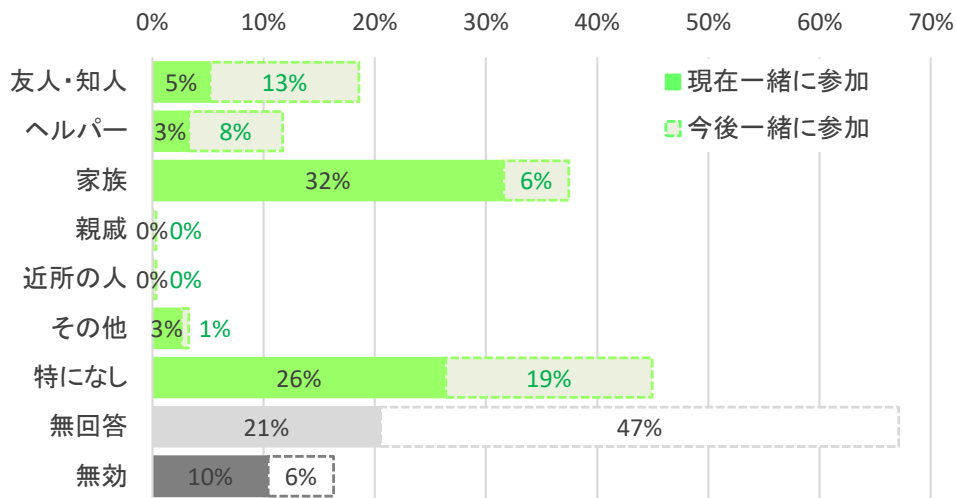


充実してほしい理由



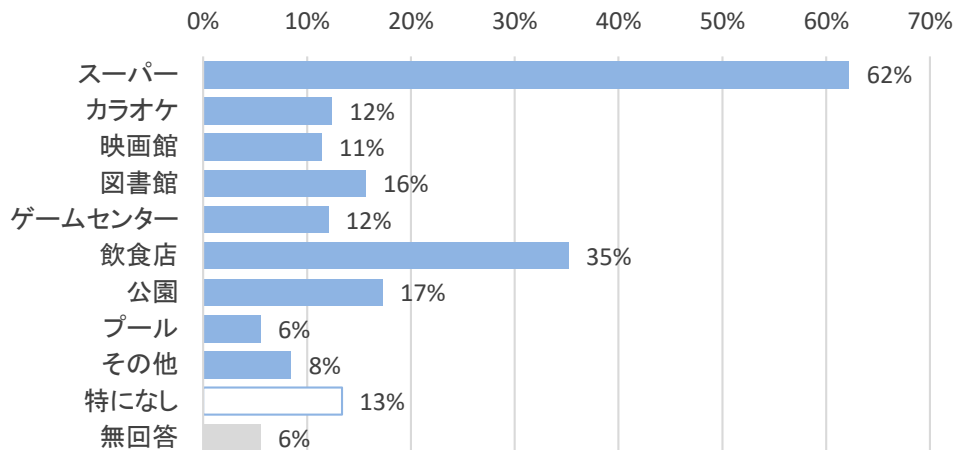
問17 ご本人の余暇活動について、現在一緒に参加している人と今後一緒に参加してほしい人

- 現在は「家族」と余暇活動に参加しているが32%、今後は「友人・知人」と参加してほしいが13%と最も多い
- 身体障害者手帳所持者は、「特になし」(41%)や無回答(25%)が多く、あまり人と余暇活動を過ごしていない傾向にある
- 療育手帳所持者は、「家族」が46%と特に多いが、「ヘルパー」(16%)のニーズもある
- 精神障害者保健福祉手帳所持者は、今後は「友人・知人」(23%)と参加してほしいと希望している



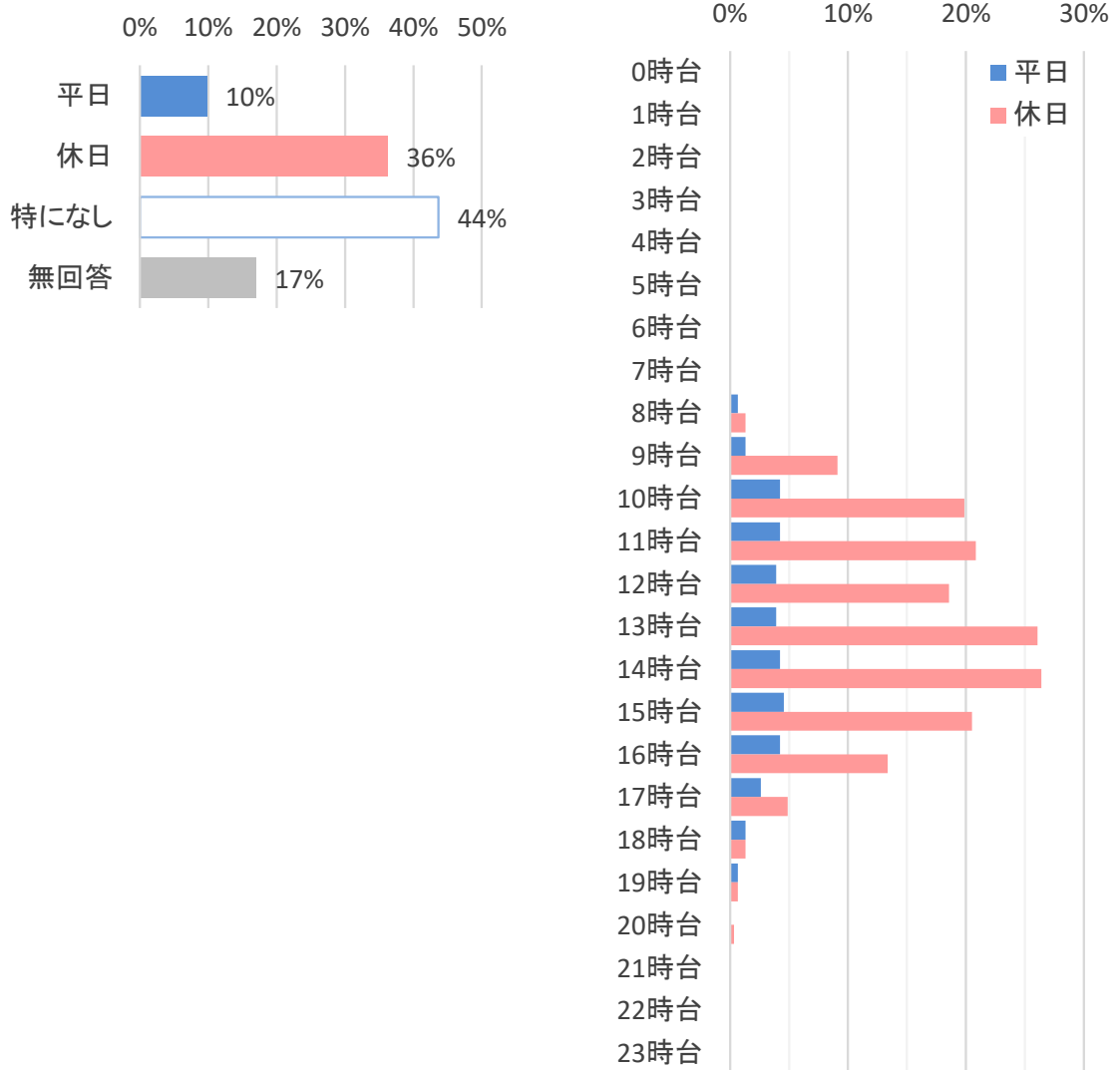
問18 ご本人が現在、よく利用する場所 (複数回答)

- スーパーが62%と最も多く、次いで飲食店(35%)が多い
- 精神障害者保健福祉手帳所持者は、スーパー(58%)に次いで図書館(23%)をよく利用している
- 身体障害者手帳所持者は、スーパー・飲食店以外の利用が少ない



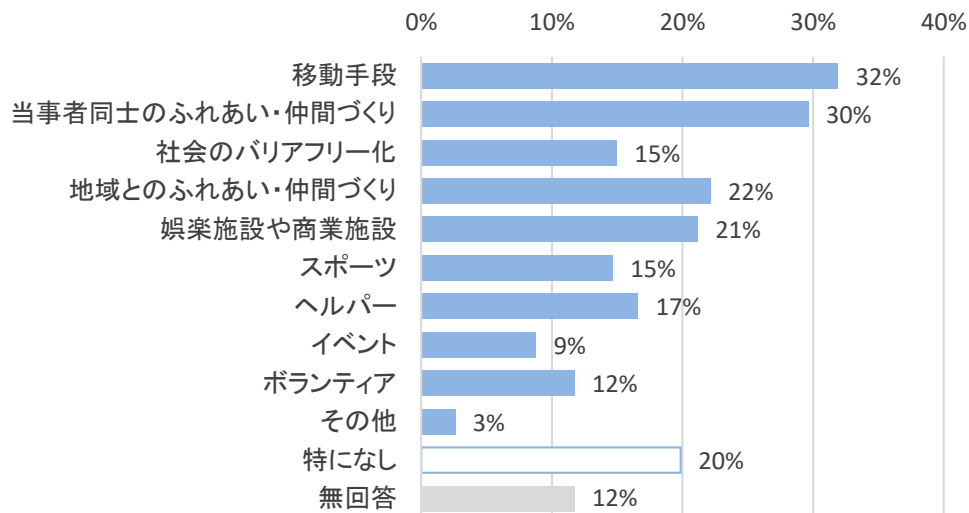
問19 余暇活動を希望する曜日と時間 (複数回答)

- 休日が36%と平日の10%よりも多いが、特に希望がない人も44%いる
- 希望する時間はほとんどが9時台から17時台と日中が多く、夜間の希望は少ない
- 療育手帳所持者は、平日よりも休日を強く希望している
- 身体障害者手帳所持者と精神障害者保健福祉手帳所持者は、余暇活動を希望する人(平日と休日)より希望しない人(特になし)の方が上回っている



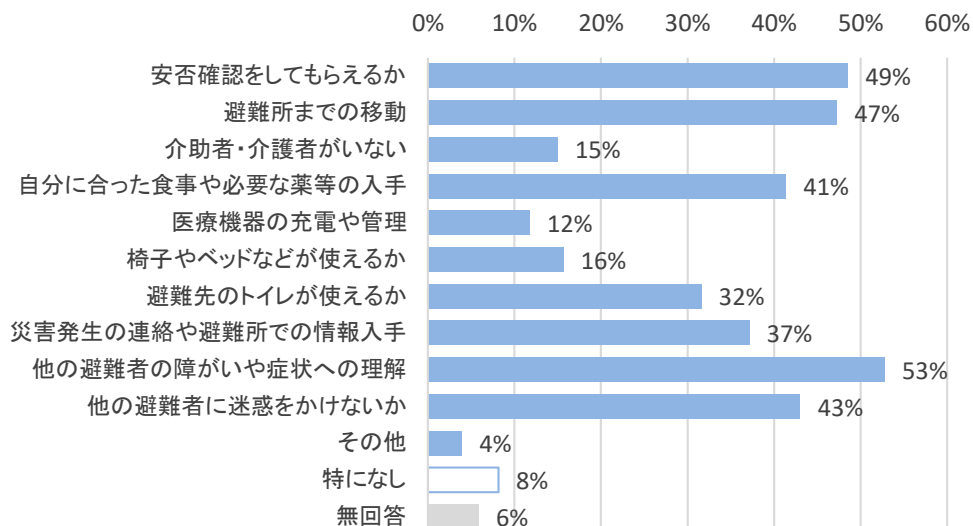
問20 ご本人やご家族にとって、余暇活動を行うにあたり充実してほしいもの
(複数回答)

- 「移動手段」が32%と最も高く、「当事者同士のふれあい・仲間づくり」(30%)が次に高い
- 療育手帳所持者は、他の手帳所持者と比べ、「ヘルパー」(28%)のニーズが高い
- 精神障害者保健福祉手帳所持者は、「当事者同士のふれあい・仲間づくり」(32%)が最も高い



問21 災害時の避難や避難所での生活に関し心配なこと (複数回答)

- 「他の避難者の障がいや症状への理解」が53%と最も多く、「安否確認をしてもらえるか」(49%)や「避難所までの移動」(47%)が続く
- 精神障害者保健福祉手帳所持者は、「安否確認をしてもらえるか」(48%)が最も多い



問22 自由意見・要望

- 意見・要望を記入したのは56人で、内容は多岐に渡るが、「親亡き後の生活」「障がい者の理解や偏見」「就労」「福祉サービス」に関するものが多い。
- 現状で満足しているという意見も一定数確認された

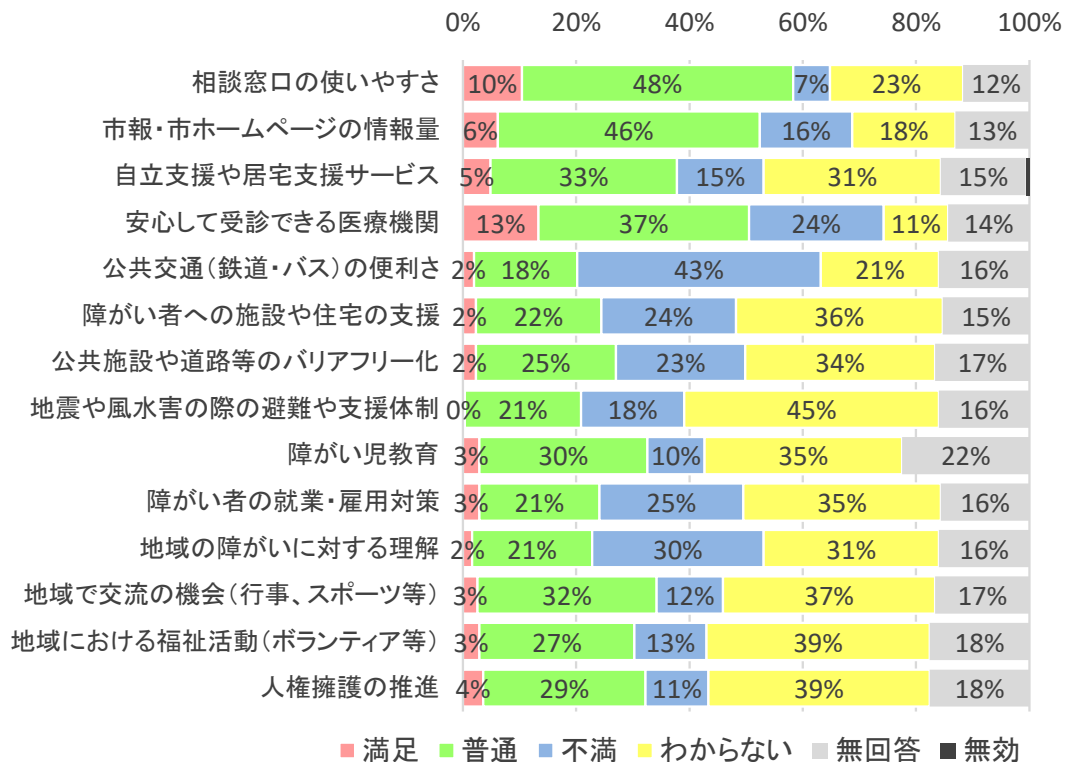
主な意見・要望

	要望・不満に関するもの	不安・心配に関するもの
生活	<ul style="list-style-type: none"> ●結婚のための出会いの場 ●イベント等の積極的な周知 ●学校卒業後の選択肢が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ●親亡き後の生活 [4] ●経済的な不安 [2] ●今後の介護
就労・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ●障がい者を雇用する企業が少ない [2] ●就労移行支援の地域的な偏り ●就職後の相談体制やサポート ●工賃の増加 ●障がい者雇用の理解が足りない 	<ul style="list-style-type: none"> ●職場でうまくやれているか
福祉サービス・制度	<ul style="list-style-type: none"> ●行政の積極的な対応 ●生活介護の事業所や定員の増加 ●制度やガイドラインの変更時の説明 ●利用したいサービス（放課後等デイサービス等）が不便で使いにくい [3] ●子供を安心して預けられるところの増加 [2] ●パレット子どもホームの改善 [2] ●市内に重度障がい者が入れる施設 	
相談	<ul style="list-style-type: none"> ●相談先が分かりにくい ●(忙しそうなので) 相談支援専門員に気軽に相談ができない 	
医療	<ul style="list-style-type: none"> ●対応できる病院が少ない [2] ●入院時、安価にヘルパーをお願いしたい 	<ul style="list-style-type: none"> ●本人の入院時が心配
社会	<ul style="list-style-type: none"> ●障がい者担当の民生委員 ●福祉サービスの利用が特別なものではなく身近に感じられる社会 ●障がい児が安心して遊べる公園 ●障がい者（児）に対する偏見のない社会 ●障がい者にやさしい社会（手摺・駐車場・トイレ） [4] 	<ul style="list-style-type: none"> ●（見た目ではわかりにくい障がいの場合）障がいを理解されにくい、不審に思われる [3]
移動・交通	<ul style="list-style-type: none"> ●バス停の改良（雨風を凌げるよう） ●タクシーチケットがもう少しあるとよい 	
災害		<ul style="list-style-type: none"> ●本人が避難所を嫌がりそう ●避難所まで行けるか

※ [] の数字は件数

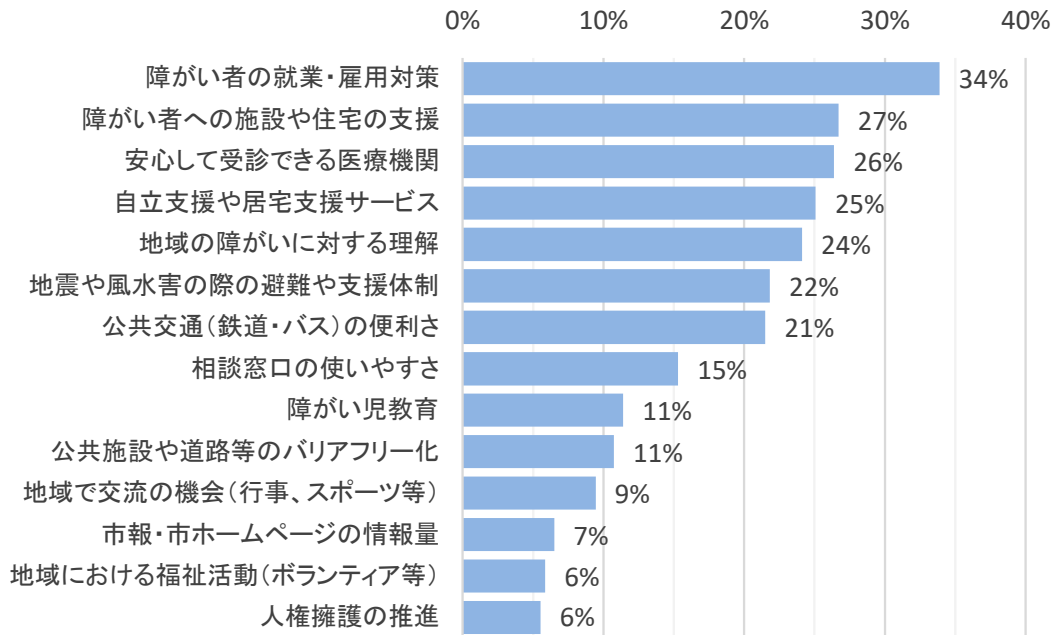
問23 市の施策やまちづくりに対する満足度

- 満足・普通・不満と回答している人（評価している人）の中で、「相談窓口の使いやすさ」は比較的に満足度が高く、「公共交通（鉄道・バス）の便利さ」に不満を感じている人の割合が多い
- 「地震や風水害の際の避難や支援体制」については周知不足の可能性がある
- 「安心して受診できる医療機関」については、精神障がい者には満足度が高いが、身体障がい者と知的障がい者には不満が多い状況にある



問24 市の施策やまちづくりについて、特に充実してほしいこと (3つまで)

- 「障がい者の就業・雇用対策」が34%と特に高く、次に「障がい者への施設や住宅の支援」(27%)や「安心して受診できる医療機関」(26%)が多い
- 身体障害者手帳所持者は、「安心して受診できる医療機関」が37%と最も高い
- 療育手帳所持者は、「自立支援や居宅支援サービス」が34%と最も高い
- 精神障害者保健福祉手帳所持者は、「障がい者の就業・雇用対策」が55%と特に高い



5. まとめ

相談窓口については、4人にひとりが把握されていない状況で、特に身体障がい者や精神障がい者の家族に多いことが分かった(問6)。また、回答の結果より、「わからない」や無回答も多くあり、障がい福祉に関するサービスが複雑で、十分な理解に至っていないことが推測されるため、困った時の相談窓口を明確にする必要がある。

安心して当事者を任せるためには、支援者との関係性や支援者の技術が重要とみなされているが(問12)、一方で、今後の利用希望のサービス(短期入所、生活介護等)に対しての施設の数や定員が不足している状況もあり(問9・10・22)、改善が求められている。それによって、家族の不安を解消し、休息やリフレッシュの機会を提供することができる。

家族の悩みや心配事の中に、「親亡き後の生活」がいくつか挙げられた(問5の自由記述・問22)。将来に渡って子どもが生活していくためには、福祉の制度やサービスの充実だけでなく、就労・雇用対策にも期待が寄せられている(問5・問24)。しかし、今回の調査で就労している人は2割にも満たず(問13)、家族の思いとしては企業側の障がい者に対する理解や配慮が強く求められていることが分かった(問14)。一部に制限や苦手なことがあっても、能力や意欲の高い人は社会の担い手としてどこかで役割があり、人口減少・人手不足の現代において益々重要な存在となっている。障がい者の就労を実現するため、企業側への障がい者雇用のメリットや好事例の紹介、サポート体制の構築(定着支援等)、環境整備の費用補助など雇用の動機付けや支援が求められる。

障がい者に対する理解や配慮においては、就労以外の面においても求められていることが分かった(問24)。偏見による地域活動への参加のしづらさ(問22)、災害時においても他の避難者に理解が得られるかが心配であったり(問21)、見た目では分かりにくい障がい故の生きづらさを感じている人もいる(問22)。市民の研修や啓発の実施だけでなく、障がいのある人もない人も参加でき参加したくなるイベントの実施や、販売所での就労機会の増加など、地域で障がい者とふれあう機会を設けることで、心理的な距離から縮めることも必要である。

調査を踏まえて

- ◎ **障がい福祉サービスと困った時の相談先を多くの人に分かりやすく情報提示する障がい福祉のポータルサイトの確立**
- ◎ **福祉サービスのニーズに応えられる施設の増加と人材の確保・育成**
- ◎ **障がい者に対する理解や配慮があり多様な働き方ができる企業を増やすための支援**
- ◎ **地域で障がい者の存在が身近になる仕組みづくり**

家族向けアンケート

このアンケート調査は、障がいのある方のご家族の状況、ご意見及びご要望を把握するために実施するものです。

対象者は身体障害者手帳、療育手帳、精神保健福祉手帳の各手帳所持者から無作為抽出しております。

お答えいただいた内容については、不足しているサービスの検証や充実するための方策の研究、未実施及び新たなサービス利用に関する調査・分析に活用します。個人を特定するものではありませんので、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いします。

お手数ですが、調査票は、平成31年3月15日（金）までに同封の返信用封筒をご使用のうえ、ご返送ください。

四国中央市自立支援協議会 資源開発部会

電話（0896）28-6023

FAX（0896）28-6172

※設問は全部で24問あります。

【問1】 このアンケートにお答えくださる方（以下、「ご家族」と記載します）は、障がいのあるご本人（以下、「ご本人」と記載します）からみてどんな関係にあたるか、あてはまるもの1つに○をしてください。

- | | | | | |
|--------------|----------|--------|---------|-------|
| 1. 父または母 | 2. 夫または妻 | 3. 祖父母 | 4. 兄弟姉妹 | 5. 子供 |
| 6. その他（
） | | | | |

【問2】 ご家族とご本人の年齢について、あてはまるものそれぞれ1つに○をしてください。

【ご家族】

- 10代以下
- 20代
- 30代
- 40代
- 50代
- 60代
- 70代
- 80代以上

【ご本人】

- 17歳以下
- 18～19歳
- 20代
- 30代
- 40代
- 50代
- 60代

【問3】 ご本人がお持ちの手帳について、あてはまるものにすべてに○をしてください。

1. 身体障害者手帳 2. 療育手帳 3. 精神障害者保健福祉手帳

↓

身体障害者手帳をお持ちの場合、障がいの部位すべてに○をしてください。

1. 視覚
2. 聴覚・平衡機能
3. 音声・言語・そしゃく機能
4. 肢体不自由（上肢、下肢、体幹、脳原性運動機能）
5. 内部障がい（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう・直腸、小腸、免疫、肝臓）

【問4】 ご本人が現在お住まいの地域について、あてはまるもの1つに○をしてください。

1. 川之江 2. 三島 3. 土居 4. 新宮 5. その他

【問5】 ご本人またはご家族にとって、今の生活の中での悩みや困りごとについて、あてはまるものすべてに○をし、その主な理由も（ ）にお書きください。

- | | | |
|-------------------|---|---|
| 1. 教育・学習のこと | (|) |
| 2. 医療やリハビリのこと | (|) |
| 3. 経済的なこと | (|) |
| 4. 家族や家庭生活のこと | (|) |
| 5. 援助・介護のこと | (|) |
| 6. 働くこと | (|) |
| 7. 趣味や生きがいのこと | (|) |
| 8. 交通機関のこと | (|) |
| 9. 住宅のこと | (|) |
| 10. 必要な情報を得ること | (|) |
| 11. 友人や相談相手を持つこと | (|) |
| 12. 地域や社会の理解を得ること | (|) |
| 13. 社会参加のこと | (|) |
| 14. 意思疎通のこと | (|) |
| 15. その他 | (|) |
| 16. 特になし | | |

相談窓口について

【問 6】 サービスを使いたいときや、ご本人のことを相談したいときに、どこに相談すればいいか知っていますか。
 < はい ・ いいえ >

【問 7】 ご本人のことを相談する相手について、1から7それぞれの項目のあてはまるところに○をしてください。

	満足度				⑤相談していない
	①満足している	②普通	③満足していない	④わからない	
1. 病院職員					
2. 事業所職員					
3. 相談支援専門員					
4. 行政職員					
5. 友人・知人					
6. 家族					
7. その他 ()					

【問 8】 希望する相談方法について、あてはまるものに○をしてください。

1. 電話 2. 自宅に来てもらう 3. 相談窓口に行く 4. FAX 5. メール
 6. その他 ()

障がい福祉サービス等について

【問 9】 ご本人が現在、利用している障がい福祉サービス等（以下、「サービス」と記載します）について、あてはまるものすべてに○をしてください。
 ⇒4ページの解答欄へ、サービスの内容は別紙資料をご覧ください。

【問 10】 ご本人が今は利用していないけれども今後または将来利用したいサービスについて、平日（月から金）の日中（8時から18時）と夜間（18時から22時）、休日（土日祝）の日中（8時から18時）と夜間（18時から22時）で、あてはまるものすべてに○をしてください。
 ⇒4ページの解答欄へ、サービスの内容は別紙資料をご覧ください。

サービス ☉：障がい者が対象 ☺：障がい児が対象	【問9】 現在 利用中	【問10】今後（将来）利用したい			
		平日（月から金）		休日（土日祝）	
		日中 （8～18時）	夜間 （18～22時）	日中 （8～18時）	夜間 （18～22時）
1. 居宅介護（ホームヘルプ）	☉☺				
2. 重度訪問介護	☉				
3. 同行援護	☉☺				
4. 行動援護	☉☺				
5. 重度障害者等包括支援	☉☺				
6. 短期入所（ショートステイ）	☉☺				
7. 療養介護	☉				
8. 生活介護	☉				
9. 自立生活援助	☉				
10. 自立訓練（機能訓練）	☉				
11. 自立訓練（生活訓練）	☉				
12. 宿泊型自立訓練	☉				
13. 就労移行支援	☉				
14. 就労継続支援A型	☉				
15. 就労継続支援B型	☉				
16. 就労定着支援	☉				
17. 移動支援事業	☉☺				
18. 地域活動支援センター	☉				
19. 施設入所支援	☉				
20. 共同生活援助（グループホーム）	☉				
21. 児童発達支援	☺				
22. 医療型児童発達支援	☺				
23. 放課後等デイサービス	☺				
24. 保育所等訪問支援	☺				
25. 居宅訪問型児童発達支援	☺				
26. 福祉型障害児入所施設	☺				
27. 医療型障害児入所施設	☺				
28. 計画相談支援	☉☺				
29. 障害児相談支援	☺				
30. 地域移行支援	☉				
31. 地域定着支援	☉				
32. その他（ ）					

【問 11】 ご本人が利用しているサービス提供事業所を選んだ理由について、あてはまるものすべてに○をしてください。

- | | | | |
|----------------|------------|----------|----------|
| 1. サービス提供内容 | 2. 営業時間 | 3. 評判 | 4. 紹介 |
| 5. 自宅からの距離（場所） | 6. 事業所の雰囲気 | 7. 設備 | 8. 送迎の有無 |
| 9. その他（ | ） | 10. 特になし | |

【問 12】 安心して支援者にご本人を任せるために重要だと思うものについて、あてはまるものすべてに○をしてください。

- | | | |
|------------|--------------------|-------------|
| 1. 施設、設備 | 2. 支援者の技術（スキル） | 3. 支援者との関係性 |
| 4. サービス内容 | 5. 利用にかかる費用（自己負担額） | 6. 連絡相談体制 |
| 7. 健康面、医療面 | 8. その他（ | ） |
| | | 9. 特になし |

就労について

【問 13】 ご本人の現在の就労状況などについて、あてはまるものに○をしてください。

1. 就労をしている（パート・アルバイトを含む）
2. 自営業を営んでいる（家業の手伝いを含む）
3. 求職中、または職業訓練を受けている
4. 通所施設などに通っている（就労継続支援（A型・B型）を含む）
5. 病院等のデイケアに通っている
6. 学生（保育所、幼稚園、認定こども園を含む）
7. その他（
8. 特になにもしていない

【問 14】 ご本人の就労のために必要な支援について、あてはまるものすべてに○をしてください。

1. 就職・就労に向けた相談窓口
2. 就職に必要な知識や技能の習得
3. 就職に必要なコミュニケーション技術の習得
4. 就職に向けた職業訓練
5. 就職後の相談・支援（定着支援やジョブコーチ）
6. 障がい者雇用の普及・啓発
7. 企業側の障がい者への理解や配慮（ソフト面）
8. 障がい特性に配慮した職場環境の整備（ハード面）
9. 給料（賃金・工賃）の充実
10. その他（
11. 特になし

【問 19】 余暇活動を希望する曜日について、あてはまるものすべてに○をしてください。
1、2を選んだ場合は午前・午後のどちらかに○をし、時間もお書きください。

1. 平日（月から金）	（午前・午後）〇〇〇時から（午前・午後）〇〇〇時まで
2. 休日（土日祝）	（午前・午後）〇〇〇時から（午前・午後）〇〇〇時まで
3. 特になし	

【問 20】 ご本人やご家族にとって、余暇活動を行うにあたり充実してほしいものについて、あてはまるものすべてに○をしてください。

- | | |
|---------------|---------------------|
| 1. 移動手段 | 2. 当事者同士のふれあい・仲間づくり |
| 3. 社会のバリアフリー化 | 4. 地域とのふれあい・仲間づくり |
| 5. 娯楽施設や商業施設 | 6. スポーツ |
| 7. ヘルパー
) | 8. イベント（その内容：
) |
| 9. ボランティア | 10. その他（
) |

その他

【問 21】 災害時の避難や避難所での生活に関し心配なことについて、あてはまるものすべてに○をしてください。

- | |
|--------------------------------|
| 1. 安否確認をしてもらえるか |
| 2. 避難所までの移動 |
| 3. 介助者・介護者がいない |
| 4. 自分に合った食事や必要な薬等の入手 |
| 5. 医療機器の充電や管理 |
| 6. 椅子やベッドなどが使えるか |
| 7. 避難先のトイレが使えるか |
| 8. 災害発生の連絡や避難所での情報を伝えてくれる人がいるか |
| 9. 他の避難者が障がいや症状について理解してくれるか |
| 10. 他の避難者に迷惑をかけてしまわないか |
| 11. その他（
) |
| 12. 特になし |

【問 22】 その他、ご自由に意見や要望をお書きください。

【問 23】 市では障がいのある方へのさまざまな事業を行っていますが、市の施策やまちづくりに対する満足度について、1から14それぞれの項目のあてはまるところに○をしてください。

	満足度			
	①満足	②普通	③不満	④わからない
1. 相談窓口の使いやすさ				
2. 市報・市ホームページの情報量				
3. 自立に向けた福祉サービスや居宅支援サービス・支援				
4. 安心して受診できる医療機関				
5. 公共交通（鉄道・バス）の便利さ				
6. 障がい者への施設や住宅の支援				
7. 公共施設や道路等のバリアフリー化				
8. 地震や風水害の際の避難や支援体制				
9. 障がい児教育				
10. 障がい者の就業・雇用対策				
11. 地域の障がいに対する理解				
12. 地域で交流できる行事やイベント、スポーツ等の機会				
13. 地域における福祉活動の取り組み（ボランティア等）				
14. 人権擁護の推進				

【問 24】 市では障がいのある方へのさまざまな事業を行っていますが、市の施策やまちづくりについて、特に充実してほしいことを【問 23】の1から14の中から3つ選んで数字をお書きください。

	【問 23】の番号		
特に充実してほしいこと			

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

第6回自立支援協議会 資源開発部会 家族向けアンケート 集計・分析

集計表 (全体)

問1 アンケートの回答者	
1 父または母	218
2 夫または妻	45
3 祖父母	2
4 兄弟姉妹	18
5 子供	7
6 その他	11
無回答	5
無効	1
合計	307

問2 ご家族の年齢	
1 10代以下	6
2 20代	9
3 30代	30
4 40代	66
5 50代	65
6 60代	69
7 70代	33
8 80代以上	5
無回答	12
無効	12
合計	307

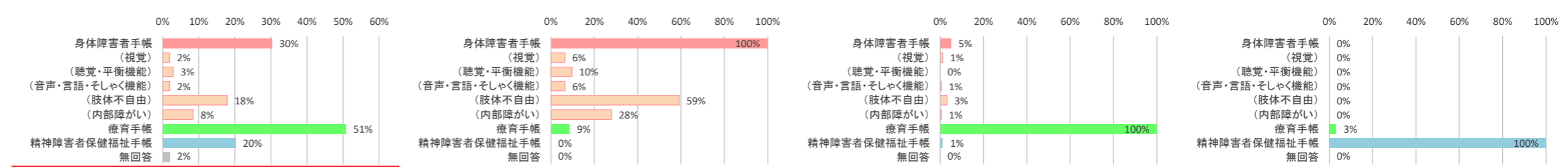
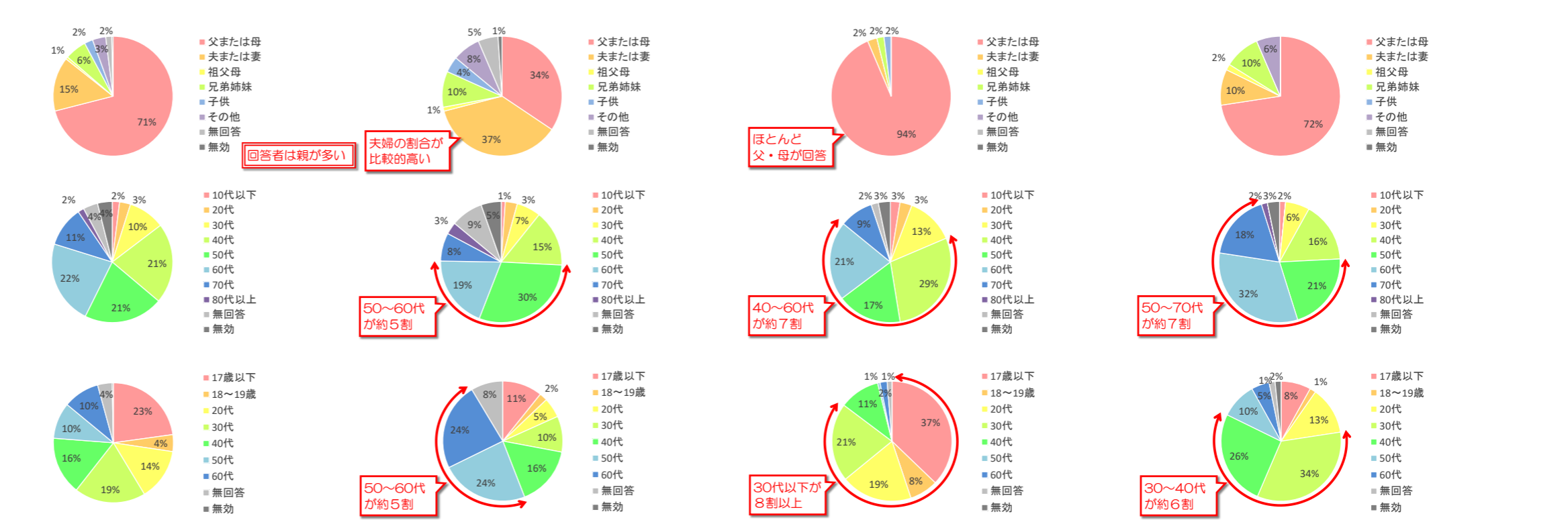
ご本人の年齢	
1 17歳以下	70
2 18～19歳	14
3 20代	43
4 30代	59
5 40代	48
6 50代	30
7 60代	30
無回答	12
無効	1
合計	307

問3 ご本人が持っている手帳【複数回答】	
身体障害者手帳	93
(視覚)	6
(聴覚・平衡機能)	9
(音声・言語・そしゃく機能)	6
(肢体不自由)	55
(内部障がい)	26
療育手帳	156
精神障害者保健福祉手帳	62
無回答	6

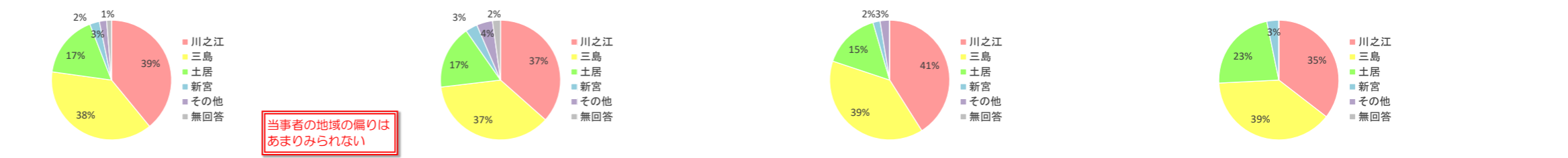
問4 ご本人が住んでいる地域	
1 川之江	120
2 三島	117
3 土居	52
4 新宮	8
5 その他	6
無回答	4
合計	307

問5 ご本人またはご家族にとっての生活の中での悩みや困りごと【複数回答】	
1 教育・学習のこと	43
2 医療やリハビリのこと	43
3 経済的なこと	81
4 家族や家庭生活のこと	62
5 援助・介護のこと	35
6 働くこと	99
7 趣味や生きがいのこと	48
8 交通機関のこと	43
9 住宅のこと	28
10 必要な情報を得ること	30
11 友人や相談相手を持つこと	45
12 地域や社会の理解を得ること	33
13 社会参加のこと	34
14 意思疎通のこと	55
15 その他	26
16 特になし	49

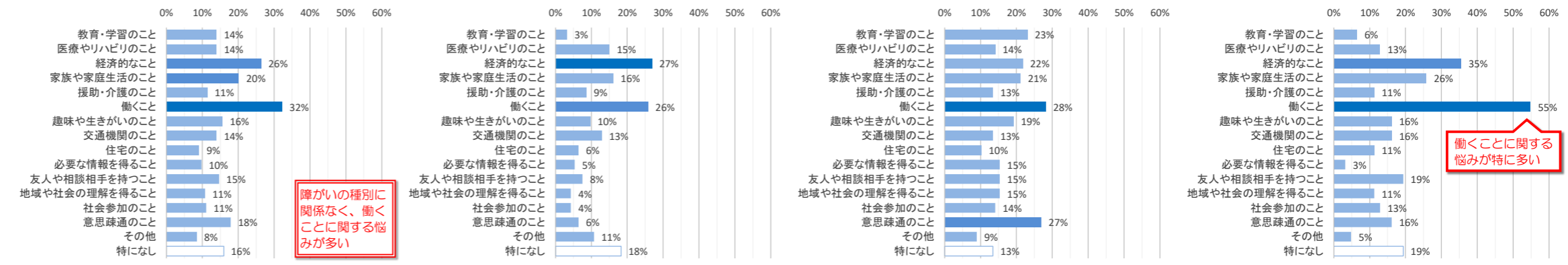
全体 N=307	身体障害者手帳所持 N=93	療育手帳所持 N=156	精神障害者保健福祉手帳所持 N=62
----------	----------------	--------------	--------------------



療育手帳所持者が半数となり、全体としては（母集団の縮図としても）、やや知的障がい者寄りの結果となっている



当事者の地域の偏りはあまりみられない



障がいの種別に関係なく、働くことに関する悩みが多い

働くことに関する悩みが特に多い

集計表 (全体)

問6 サービス利用や相談をどこにすればいいか

はい	213
いいえ	73
無回答	21
合計	307

問7 ご本人のことを相談する相手の有無と、満足度について

	満足している	普通	満足していない	わからない	相談していない	無回答	無効
1 病院職員	59	96	13	8	73	58	0
2 事業所職員	97	88	11	15	55	41	0
3 相談支援専門員	88	77	15	16	67	44	0
4 行政職員	20	68	27	20	100	72	0
5 友人・知人	48	96	5	21	71	65	1
6 家族	75	104	19	13	28	64	4
7 その他	4	2	0	1	22	278	0

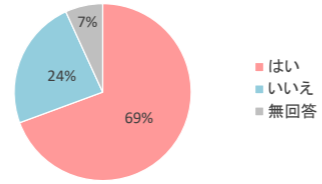
問8 希望する相談方法【複数回答】

1 電話	136
2 自宅に来てもらう	61
3 相談窓口に行く	157
4 FAX	1
5 メール	19
6 その他	14
無回答	18

問9 利用している障がい福祉サービス【複数回答】 ※グラフは、問10の内容を含む

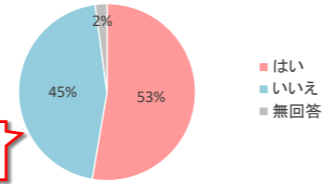
1 居宅介護(ホームヘルプ)	16
2 重度訪問介護	3
3 同行援護	3
4 行動援護	14
5 重度障害者等包括支援	1
6 短期入所(ショートステイ)	12
7 療養介護	4
8 生活介護	31
9 自立生活援助	5
10 自立訓練(機能訓練)	3
11 自立訓練(生活訓練)	13
12 宿泊型自立訓練	0
13 就労移行支援	10
14 就労継続支援A型	11
15 就労継続支援B型	51
16 就労定着支援	5
17 移動支援事業	20
18 地域活動支援センター	10
19 施設入所支援	10
20 共同生活援助(グループホーム)	4
21 児童発達支援	21
22 医療型児童発達支援	2
23 放課後等デイサービス	50
24 保育所等訪問支援	1
25 居宅訪問型児童発達支援	0
26 福祉型障害児入所施設	0
27 医療型障害児入所施設	0
28 計画相談支援	82
29 障害児相談支援	24
30 地域移行支援	1
31 地域定着支援	2
32 その他	4
無回答	101

全体 N=307



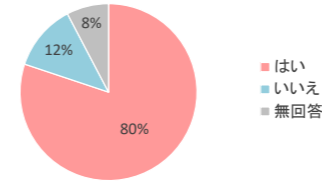
約半数が相談先を確保できていない

身体障害者手帳所持 N=93



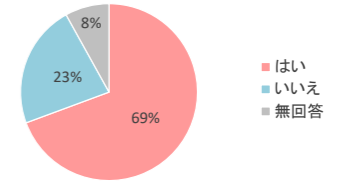
あまり相談していない傾向にある

療育手帳所持 N=156

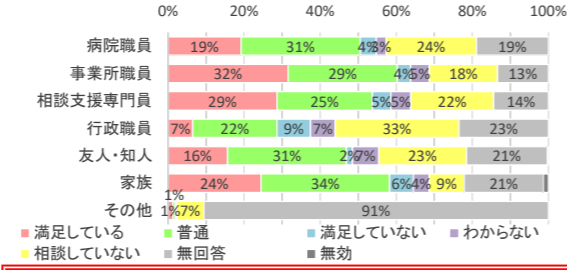


事業所職員や相談支援専門員に相談している人が多く、半数以上が満足している

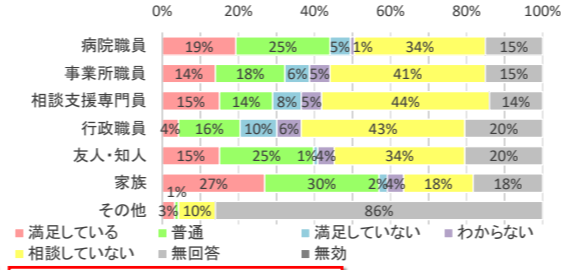
精神障害者保健福祉手帳所持 N=62



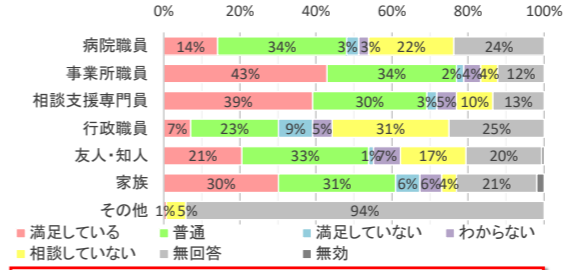
病院職員に相談している人が多く、半数は満足している



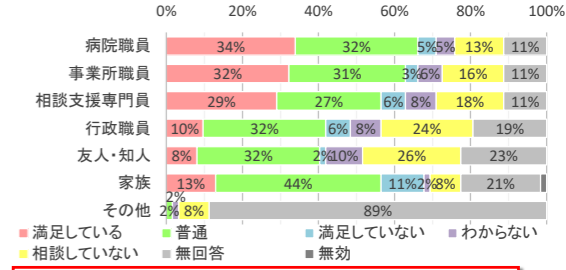
事業所職員や相談支援専門員に相談している人が多く、半数は満足している



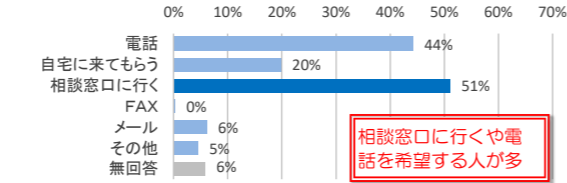
あまり相談していない傾向にある



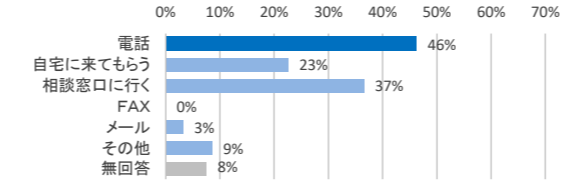
事業所職員や相談支援専門員に相談している人が多く、半数以上が満足している



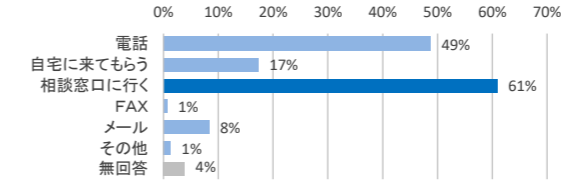
病院職員に相談している人が多く、半数は満足している



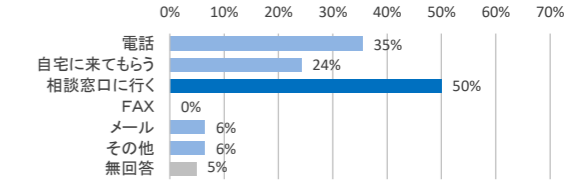
相談窓口に行くや電話を希望する人が多い



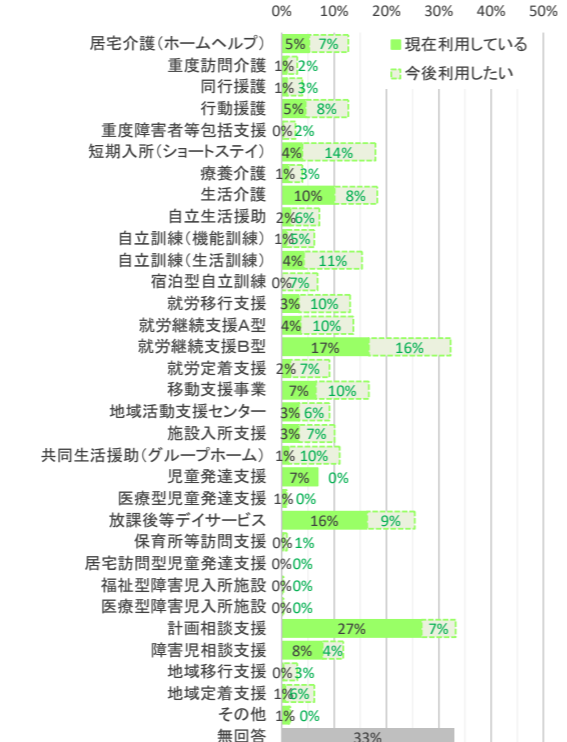
あまりサービスを使ってなく、希望も少ない



短期入所のニーズが高い



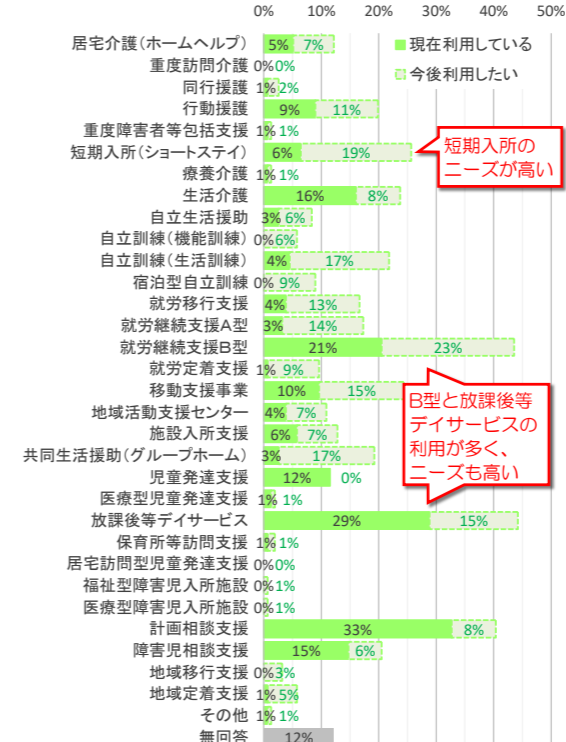
就労に関するサービスの利用とニーズが高い



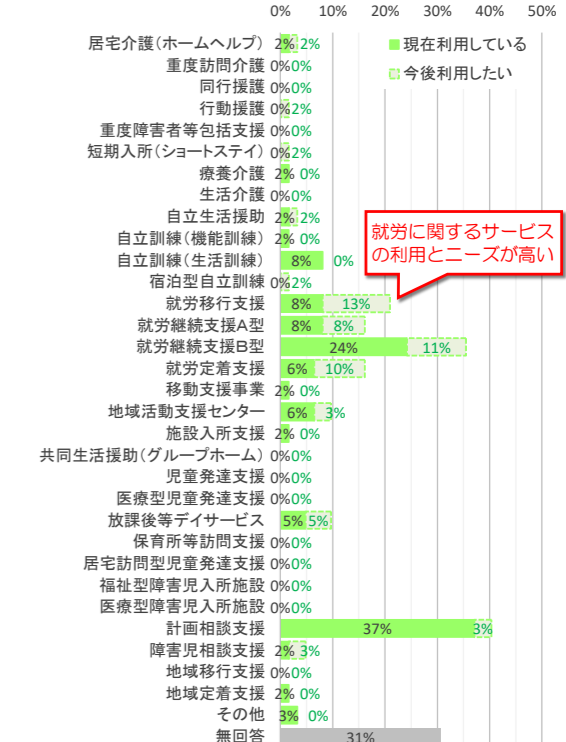
就労継続支援B型と短期入所のニーズ(今後利用希望)が高い



あまりサービスを使ってなく、希望も少ない



B型と放課後等デイサービスの利用が多く、ニーズも高い



就労に関するサービスの利用とニーズが高い

集計表 (全体)

問10 現在利用していないが、今後(将来)利用したいサービスとその時間帯【複数回答】

Table with 5 columns: Service Name, 平日の日の中, 平日の夜間, 休日の日の中, 休日の夜間, 今後利用したい. Lists various services like home care, day care, and training.

問11 利用しているサービス提供事業所を選んだ理由【複数回答】

Table with 2 columns: Reason, Count. Lists reasons like service content, hours, location, and equipment.

問12 安心して支援者にご本人を任せるために重要だと思うもの【複数回答】

Table with 2 columns: Factor, Count. Lists factors like staff skills, relationship, and cost.

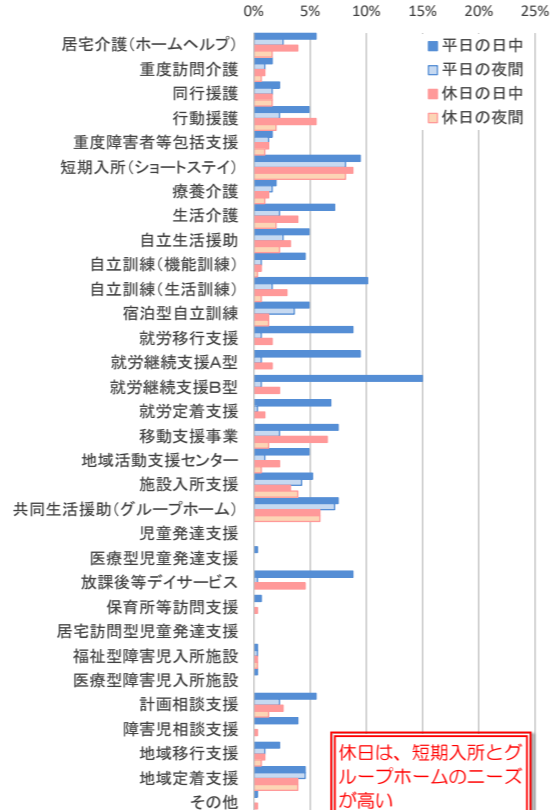
問13 ご本人の現在の就労状況【複数回答】

Table with 2 columns: Employment Status, Count. Lists statuses like part-time, self-employed, and unemployed.

問14 ご本人が就労するために必要な支援【複数回答】

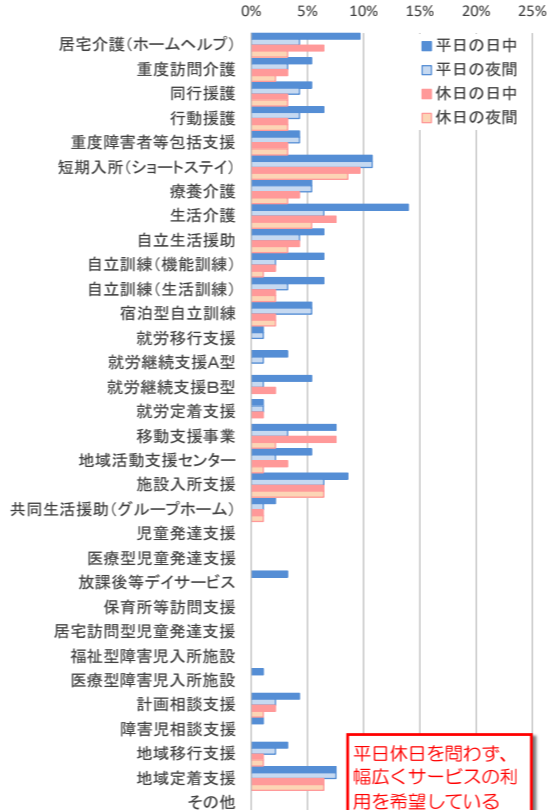
Table with 2 columns: Support Type, Count. Lists support types like counseling, training, and financial support.

全体 N=307



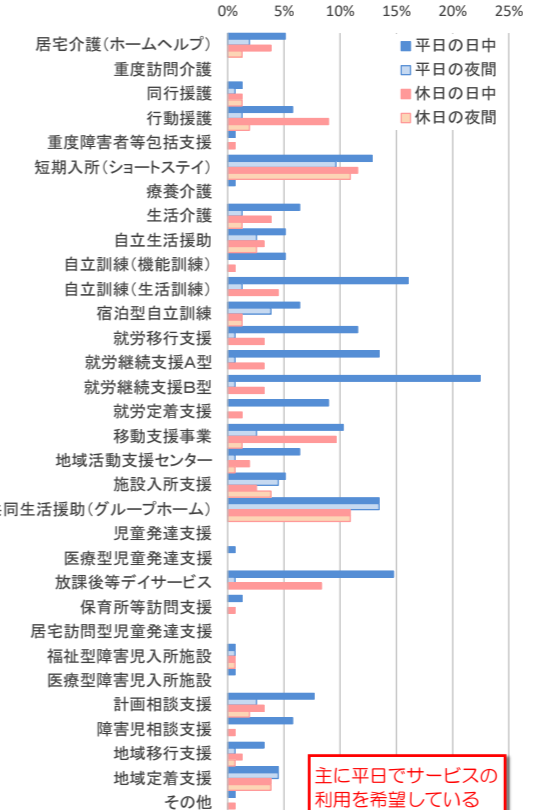
休日は、短期入所とグループホームのニーズが高い

身体障害者手帳所持 N=93



平日休日を問わず、幅広くサービスの利用を希望している

療育手帳所持 N=156

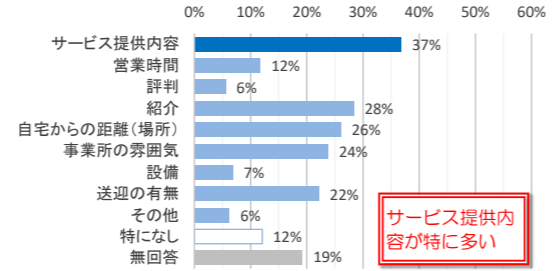


主に平日でサービスの利用を希望している

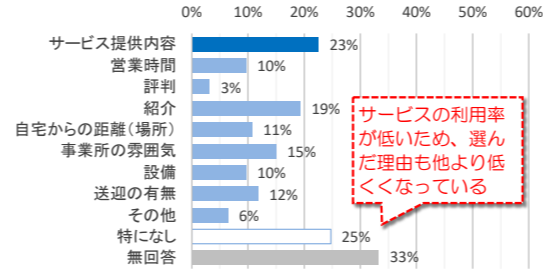
精神障害者保健福祉手帳所持 N=62



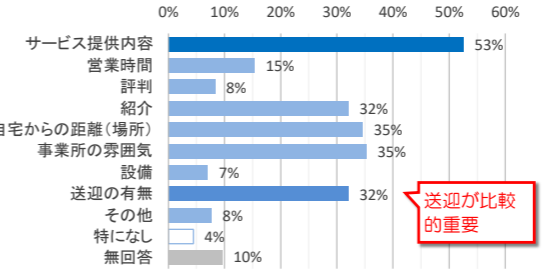
休日のサービスの利用はほとんど希望していない



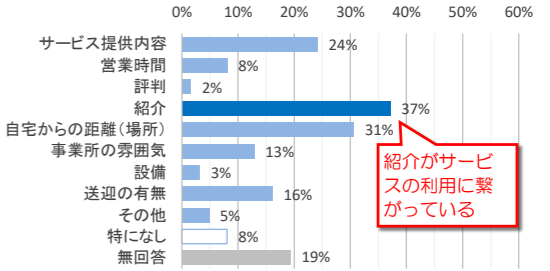
サービス提供内容が特に多い



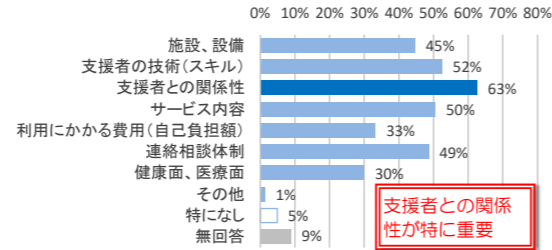
サービスの利用率が低いため、選んだ理由も他より低くなっている



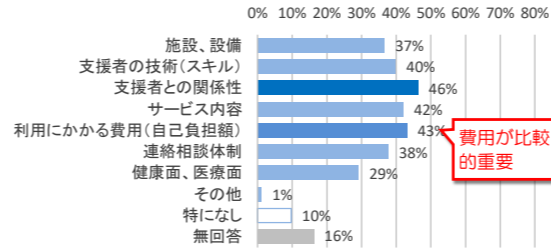
送迎が比較的重要



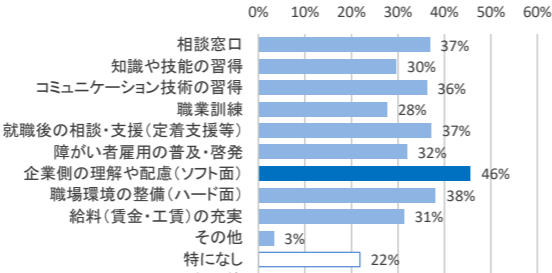
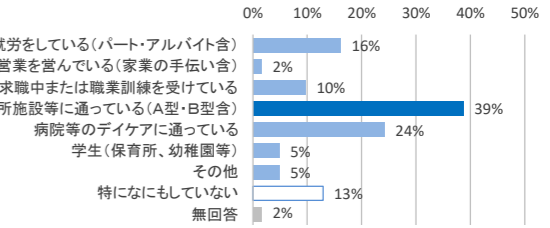
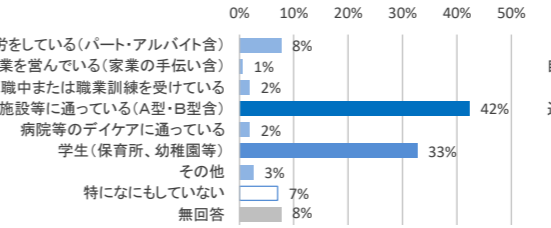
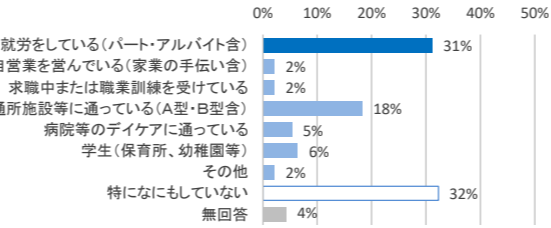
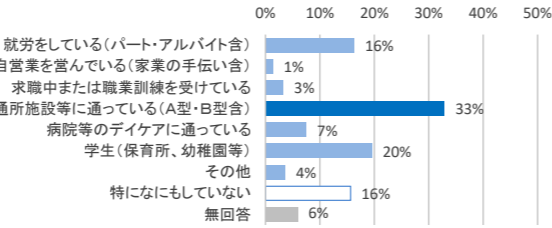
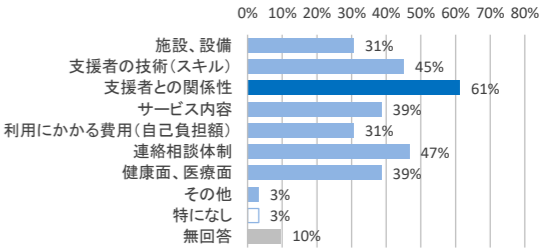
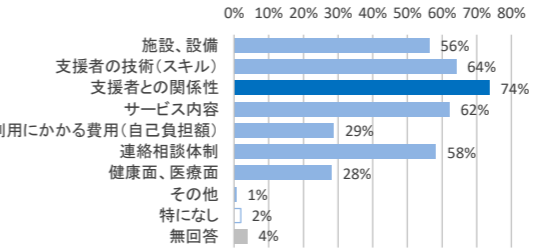
紹介がサービスの利用に繋がっている



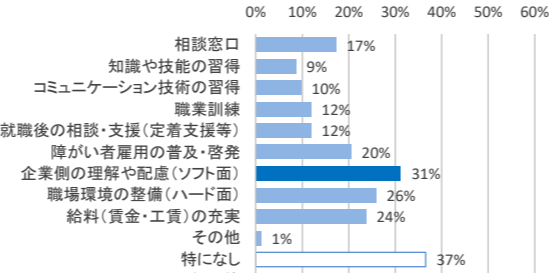
支援者との関係性が特に重要



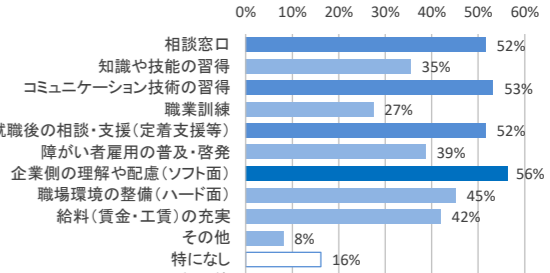
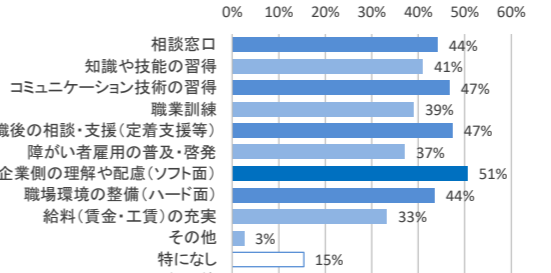
費用が比較的重要



企業側の障がい者への理解や配慮(ソフト面)が特に重要



企業側の障がい者への理解や配慮(ソフト面)以外にもあらゆる面で支援が求められている



企業側の障がい者への理解や配慮(ソフト面)以外にもあらゆる面で支援が求められている

集計表 (全体)

問15 ご家族の主な(よく利用する)移動方法

1 車	245
2 バイク	8
3 自転車	14
4 徒歩	8
5 公共交通機関	10
無回答	13
無効	9
合計	307

問16 移動の時に充実してほしいものとその理由

	時間	便数	ルート	運賃	その他
1 移動の際に付き添える人	64				
2 電車	8	1	2	2	1
3 バス	31	12	13	6	3
4 デマンドタクシー	14	6	4	5	2
5 タクシー	11	2	1	1	7
6 その他の公共交通機関	2	1	2	0	1
7 自家用車	33				
8 特になし	74				
無回答	47				
無効	23				
合計	307	27	32	20	21

問17 ご本人の余暇活動について、現在一緒に参加している人と今後一緒に参加してほしい人

	現在一緒に参加	今後一緒に参加
1 友人・知人	16	41
2 ヘルパー	10	26
3 家族	97	18
4 親戚	0	1
5 近所の人	0	1
6 その他	8	2
7 特になし	81	57
無回答	63	143
無効	32	18
合計	307	307

問18 ご本人がよく利用する場所【複数回答】

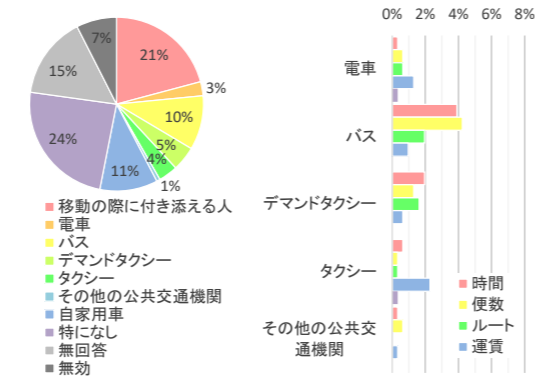
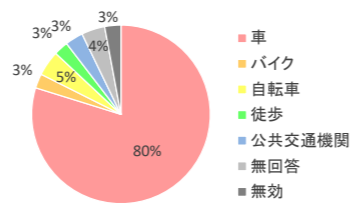
1 スーパー	191
2 カラオケ	38
3 映画館	35
4 図書館	48
5 ゲームセンター	37
6 飲食店	108
7 公園	53
8 プール	17
9 その他	26
10 特になし	41
無回答	17

問19 余暇活動を希望する曜日とその時間帯【複数回答】

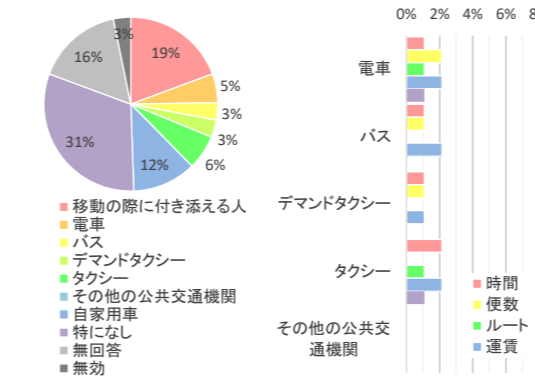
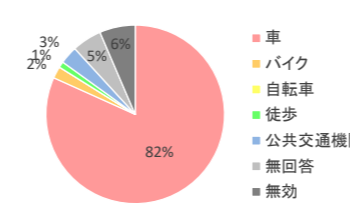
	平日	休日
1 平日	30	0
2 休日	111	0
3 特になし	134	0
無回答	52	0

時間帯	平日	休日
0時台	0	0
1時台	0	0
2時台	0	0
3時台	0	0
4時台	0	0
5時台	0	0
6時台	0	0
7時台	0	0
8時台	2	4
9時台	4	28
10時台	13	61
11時台	13	64
12時台	12	57
13時台	12	80
14時台	13	81
15時台	14	63
16時台	13	41
17時台	8	15
18時台	4	4
19時台	2	2
20時台	0	1
21時台	0	0
22時台	0	0
23時台	0	0

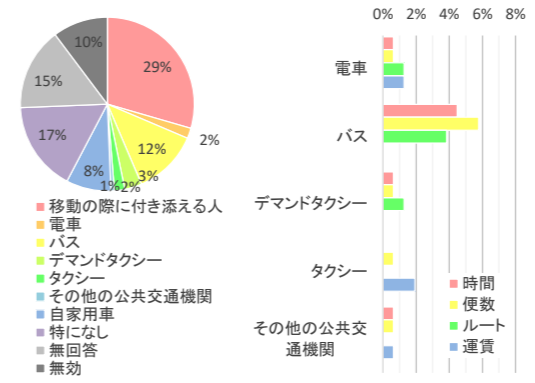
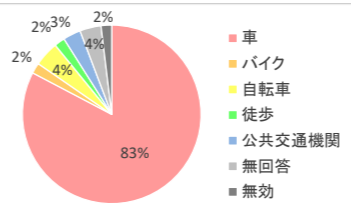
全体 N=307



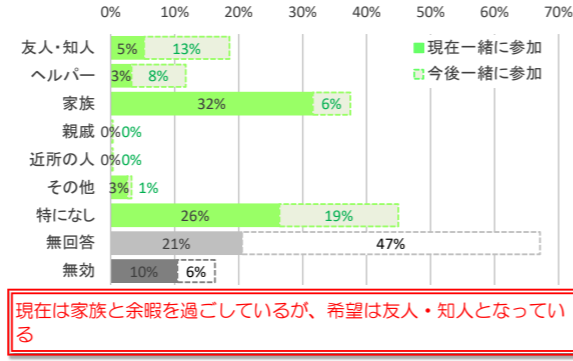
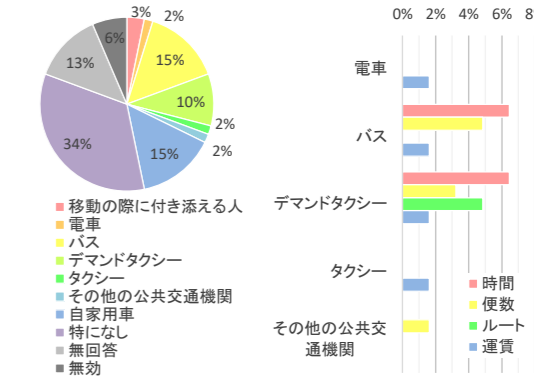
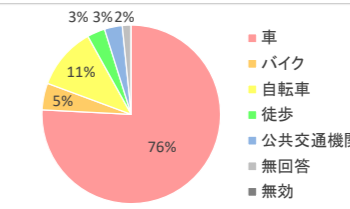
身体障害者手帳所持 N=93



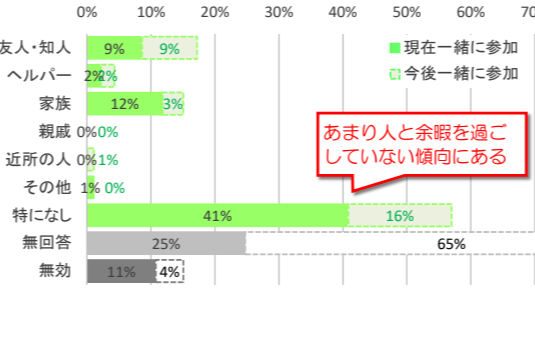
療育手帳所持 N=156



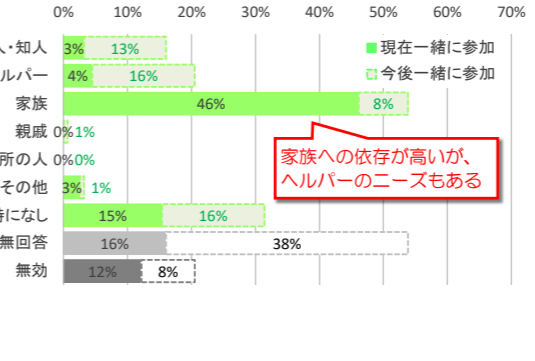
精神障害者保健福祉手帳所持 N=62



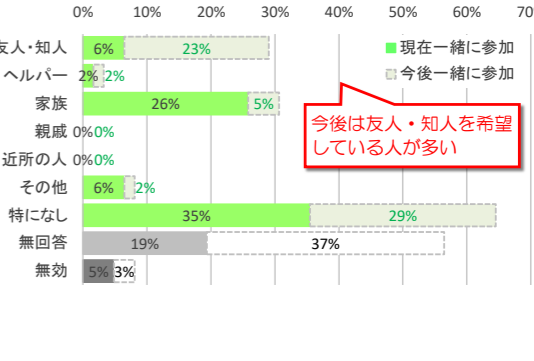
現在は家族と余暇を過ごしているが、希望は友人・知人となっている



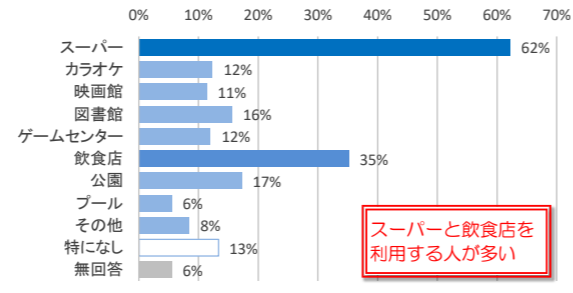
あまり人と余暇を過ごしていない傾向にある



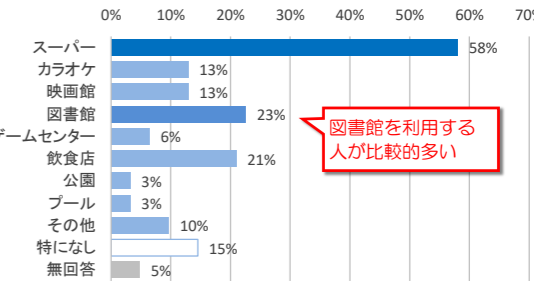
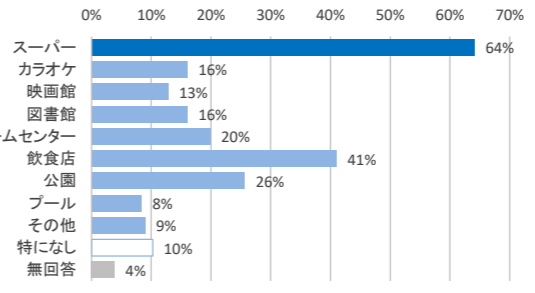
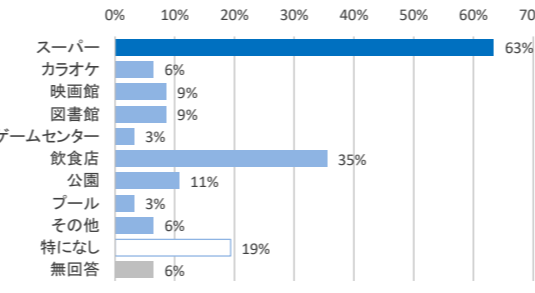
家族への依存が高いが、ヘルパーのニーズもある



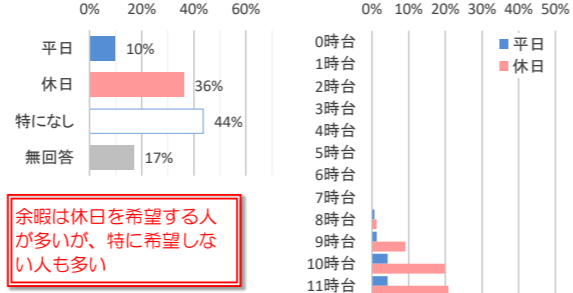
今後は友人・知人を希望している人が多い



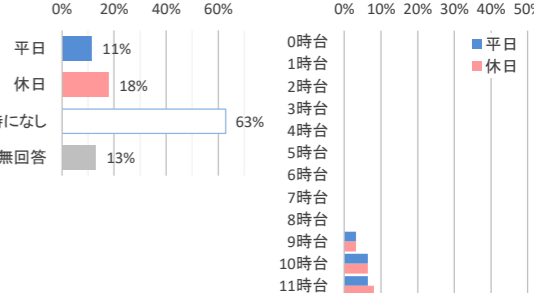
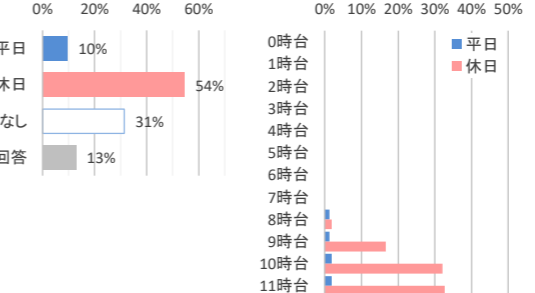
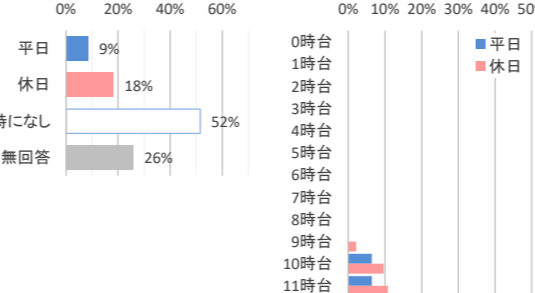
スーパーと飲食店を利用する人が多い



図書館を利用する人が比較的多い



余暇は休日を希望する人が多いが、特に希望しない人も多い



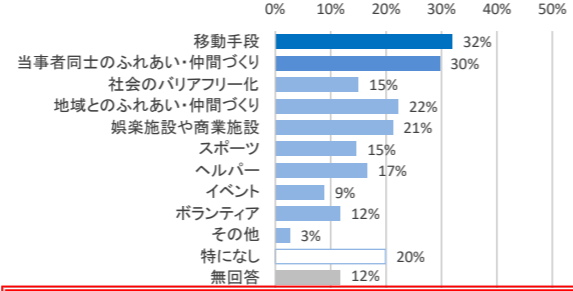
(家族としては) 平日休日を問わず、主に9時から17時の日中を希望する人が多く、夜間の希望は少ない

集計表 (全体)

問20 ご本人やご家族にとって、余暇活動を行うにあたり充実してほしいもの【複数回答】

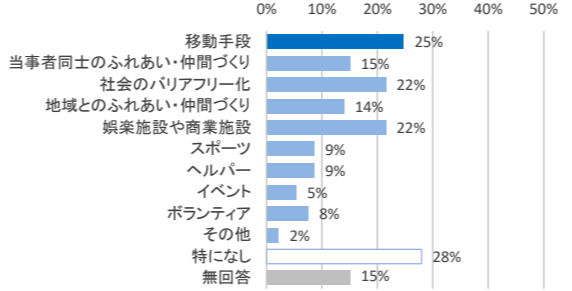
Table with 2 columns: Item, Count. Items include 移動手段, 当事者同士のふれあい・仲間づくり, 社会のバリアフリー化, etc.

全体 N=307

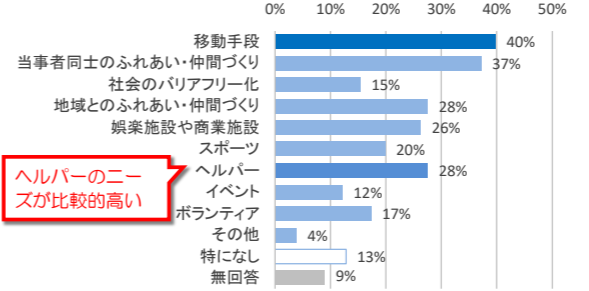


移動手段や当事者同士の仲間づくりの充実を特に希望している

身体障害者手帳所持 N=93

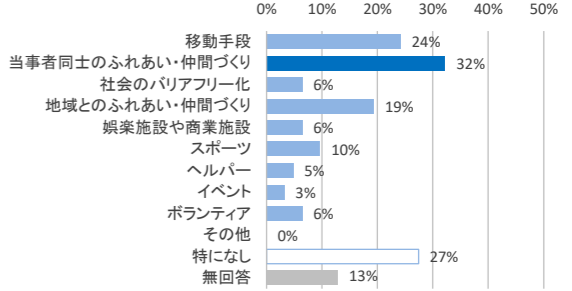


療育手帳所持 N=156



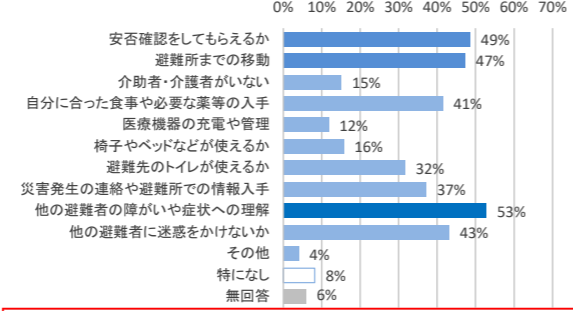
ヘルパーのニーズが比較的高い

精神障害者保健福祉手帳所持 N=62

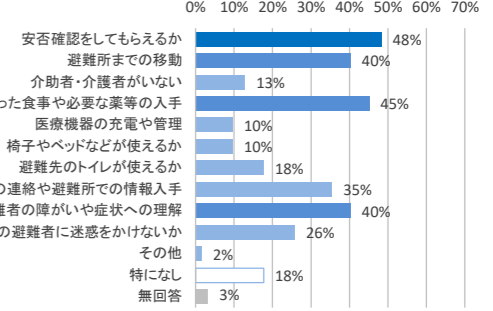
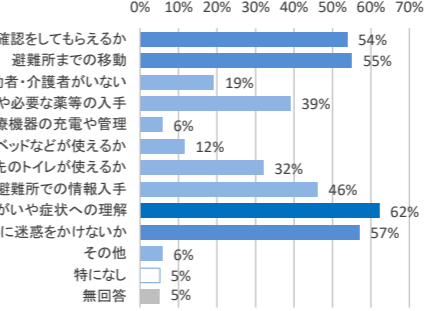
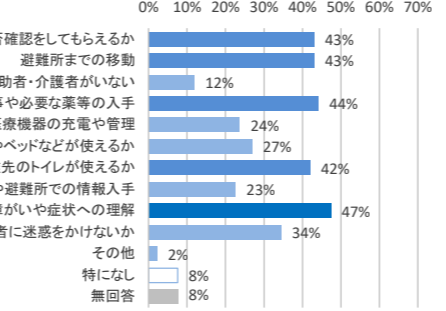


問21 災害時の避難や避難所での生活に関する心配【複数回答】

Table with 2 columns: Item, Count. Items include 安否確認をしてもらえるか, 避難所までの移動, 介助者・介護者がいない, etc.

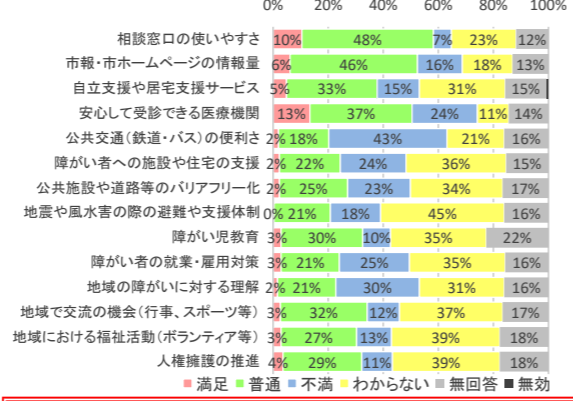


他避難者の障がいや症状への理解、安否確認や避難所までの移動について特に心配している

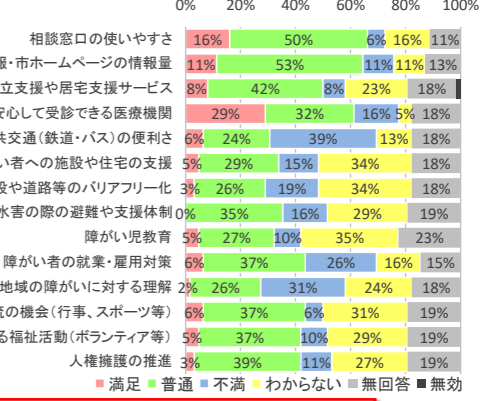
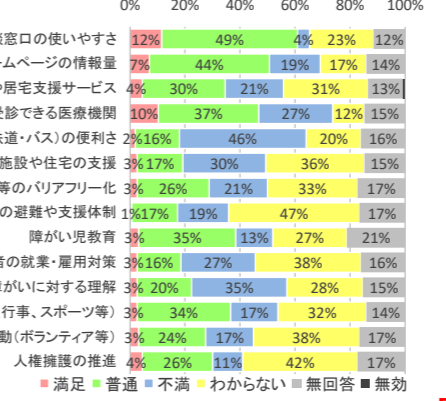
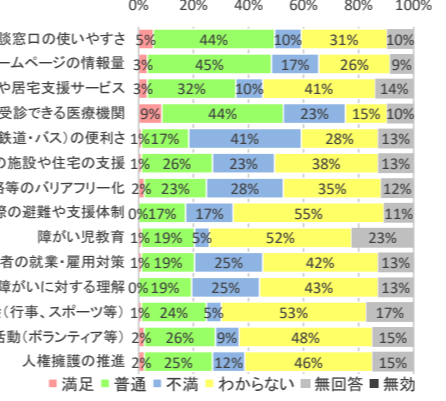


問23 市の施策やまちづくりに対する満足度

Table with 6 columns: Item, 満足, 普通, 不満, わからない, 無回答, 無効. Items include 相談窓口の使いやすさ, 市報・市ホームページの情報量, etc.



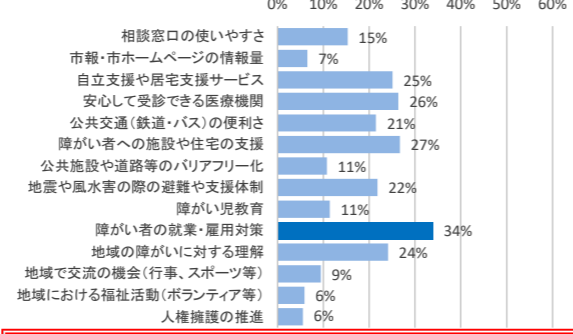
相談窓口は比較的に満足しており、公共交通に不満が多い 災害時の避難や支援体制の周知が求められる



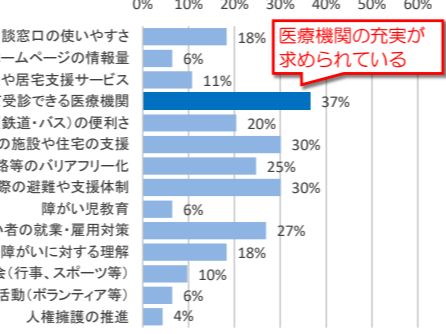
安心して受診できる医療機関については満足度が高い

問24 市の施策やまちづくりに特に充実してほしいこと【最大3つ】

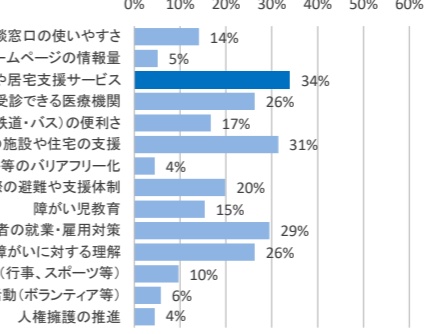
Table with 2 columns: Item, Count. Items include 相談窓口の使いやすさ, 市報・市ホームページの情報量, 自立支援や居宅支援サービス, etc.



就業・雇用対策の充実が特に期待されている



医療機関の充実が求められている



就業や雇用の充実が求められている

